

実務経験のある教員等による授業科目の配置(13単位分) 保健医療学部 看護学科  
 新カリキュラム(2022年度以降入学生)

省令で定める基準単位数:13単位

|       | 授業科目名             | 配当年次 | 単位数 | 時間数 | 担当教員の職位・氏名                        | 実務経験 |
|-------|-------------------|------|-----|-----|-----------------------------------|------|
| 1     | 看護学概論             | 1前   | 2   | 30  | 教授 近藤誓子                           | 看護職  |
| 2     | 地域・在宅看護概論Ⅱ(在宅看護論) | 2前   | 1   | 15  | 教授 小林美奈子、講師 増野章子、助手 赤羽根明佳         | 看護職  |
| 3     | 成人看護方法論Ⅰ          | 2後   | 2   | 30  | 教授 小磯京子、准教授 山中京子、講師 工藤久美子、助教 重石真宏 | 看護職  |
| 4     | 老年看護方法論Ⅰ          | 2後   | 2   | 30  | 准教授 山下知子                          | 看護職  |
| 5     | 母性看護学方法論Ⅰ         | 2後   | 2   | 30  | 教授 今井充子                           | 看護職  |
| 6     | 精神看護方法論Ⅰ          | 2後   | 2   | 30  | 教授 吉岡一美、准教授 菊地淳、講師 嶋田由枝恵、助教 田中勇気  | 看護職  |
| 7     | 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ      | 2後   | 2   | 30  | 教授 加藤さゆり、助教 坂巻つや子、助教 松崎一基         | 看護職  |
| 単位数合計 |                   |      | 13  |     |                                   |      |

| 科目コード         | 22-11301  |    |    |      |      |  |
|---------------|---|----|----|------|------|--|
| 授業科目名         | 看護学概論   |    |    |      |      |  |
| 配当年次          | 1学年   |    |    |      |      |  |
| 開講時期          | 前期  |    |    |      |      |  |
| 必修・選択・自由      | 必修  |    |    |      |      |  |
| 単位            | 2単位   |    |    |      |      |  |
| 時間数           | 30時間  |    |    |      |      |  |
| 授業形態          | 講義  |    |    |      |      |  |
| 担当教員          | 近藤 誓子   |    |    |      |      |  |
| 実務家教員         | 看護職:近藤誓子  |    |    |      |      |  |
| 授業科目の概要       | 看護学概論は、看護学全体の基本的内容を包含している科目として位置づけることから、看護学を学ぶ意義と看護学の本質を理解し、各看護学の基礎として学ぶと共に、学習者の看護への興味を高めることを目的とする。看護とは何かを看護の歴史や看護理論等を通して究明し、これからの看護を考察する。看護の目的、役割、機能を理解し、看護へのイメージを深める。さらに、人々の健康生活に関わる専門職としての“責任”と“確実な倫理感”をもって行動する姿勢・態度を修得する。   |    |    |      |      |  |
| 授業の到達目標       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは何か、について説明することができる。</li> <li>2. 看護の対象とは誰か、について説明することができる。</li> <li>3. 看護の目的とは何か、について説明することができる。</li> <li>4. 看護の役割・機能とは何か、について説明することができる。</li> <li>5. 看護の歴史の変遷を知り、看護学の発展について説明することができる。</li> <li>6. 看護実践の基盤となる看護理論を理解することができる。</li> <li>7. チーム医療と多職種連携について理解することができる。</li> <li>8. 看護職に求められる倫理について基本的知識を理解する。</li> </ol> |    |    |      |      |  |
| 関連するディプロマポリシー | 看護学科DP1234567に該当。   |    |    |      |      |  |
| 特に関連する科目      | 心理学 社会学 各看護学概論 生涯発達論 健康とスポーツ 社会福祉学 法学(日本国憲法) 看護倫理 看護行政論 コミュニケーション論  |    |    |      |      |  |
| 授業の具体的な進め方    | 授業は講義が中心である。グループワークを取り入れ、知識の共有を図っていく。   |    |    |      |      |  |
| 授業計画          |   |    |    |      |      |  |
| 回数            | 月日  | 曜日 | 時限 | 教員   | 教室   | 内容   |
| 1             | 4/11  | 木  | 1  | 近藤誓子 | 講義室1 | ガイダンス: 科目の位置づけ・科目の概要・到達目標・授業の進め方・使用する教科書や参考書、評価・事前課題や事後課題<br>『看護学の導入』<br>1. 看護に対するイメージ Q1.あなたが考える看護とは何か について書き、提出する。【リアクションペーパーへの記入】<br>【事後課題】教科書の序章「看護を学ぶにあたって」を読み、看護について考えたことをノートに書く(60分)  |
| 2             | 4/18  | 木  | 1  | 近藤誓子 | 講義室1 | 『看護とは何か』<br>1. 看護の原点と語源 2. 看護の本質 3. 三重の関心 4. 看護職能団体による看護の定義 5. 看護理論家による看護の定義<br>【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】教科書22～23頁「看護職能団体における看護の定義」を読み、大切だと思ったところにはアンダーラインを引き、わからない用語は調べ、ノートに書く。<br>【事後課題】自身が興味・関心をもった看護理論家(ナイチンゲール、ヘンダーソン以外)を1人選び、「看護の定義」をノートに書きなさい。   |
| 3             | 4/18  | 木  | 2  | 近藤誓子 | 講義室1 | 『看護とは何か』<br>1. 看護の原点と語源 2. 看護の本質 3. 三重の関心 4. 看護職能団体による看護の定義 5. 看護理論家による看護の定義<br>【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】教科書22～23頁「看護職能団体における看護の定義」を読み、大切だと思ったところにはアンダーラインを引き、わからない用語は調べ、ノートに書く。<br>【事後課題】「看護は生活行動の援助」を読み、看護をするうえで必要と考えたことをノートに書きなさい。また、生活行動の援助には、どのようなものがあるのか調べ、ノートに書きなさい。                                   |
| 4             | 4/25  | 木  | 1  | 近藤誓子 | 講義室1 | 『看護の対象-患者-』<br>1. 『人間』とは何か 2. 『人間の特性』 3. 『人間の成長・発達』 4. 『患者』の心理<br>【グループワーク】: 「聞いてください 看護師さん」を読み、患者の心理や看護師に求められていることは何かを話し合い、発表する。<br>【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】教科書78～105頁「第2章 看護の対象の理解」を熟読し、わからない用語は調べ、ノートに書く。<br>【事後課題】「聞いてください 看護師さん」を再度読み、この人の心理状態や看護師に期待することをノートに書く。                                       |
| 5             | 5/9   | 木  | 2  | 近藤誓子 | 講義室1 | 『看護の対象-家族-』<br>1. 「家族」とは 2. いろいろな家族のかたち 3. 看護の対象としての家族<br>【グループワーク】: DVD「病院ラジオ 神奈川ハビリテーション病院」を視聴し、「その人らしい生活が継続するために家族はどのような援助ができるのか」を話し合い、発表する。<br>【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】教科書100～106頁「C 人間の「暮らし」の理解」を熟読し、わからない用語は調べ、ノートに書く。<br>【事後課題】「その人らしい生活が継続できるように援助する」とは、どのようなことを考え、ノートに書く。                           |
| 6             | 5/16  | 木  | 1  | 近藤誓子 | 講義室1 | 『健康の目的・目標』<br>1. 自分の「健康」のイメージ: 「健康である」「健康ではない」 2. 「健康」とは: 日本国憲法、WHO 3. 「健康」指標としての用語 4. 「健康」を保持する行動 5. 障害とは何か<br>【事前課題】教科書108～115頁「A 健康のとらえ方」を熟読し、わからない用語は調べノートに書く。「健康日本21(第三次)」の目標について調べ、ノートに書く。<br>【事後課題】健康状態を保持するために、あなたはどのような行動をとっているか、について考えノートに書く。  |
| 7             | 5/16  | 木  | 2  | 近藤誓子 | 講義室1 | 『人々の健康に関する統計』<br>1. 国民の健康の動向 2. 生涯各期の定義と健康問題 3. 「健康」と「環境」<br>【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】教科書115～136頁「B国民の健康状態」「C国民のライフサイクル」を熟読し、わからない用語は調べ、ノートに書く。<br>【事後課題】居住地域の市町村ホームページから健康への取り組みを調べ、ノートに書く。  |
| 8             | 5/23  | 木  | 1  | 近藤誓子 | 講義室1 | 『ナイチンゲール①』<br>1. ナイチンゲールの経歴と業績 2. ナイチンゲールの生きた時代 3. 理論開発の源泉 4. ナイチンゲールが示した「病氣」とは 5. ナイチンゲールが示した「健康の法則＝看護の法則」とは 【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】教科書25～27頁「看護哲学を論じた理論家による看護のとらえ方 フローレンス＝ナイチンゲール」を読み、大切だと思ったところはアンダーラインを引き、わからない用語は調べ、ノートに書きなさい。<br>【事後課題】G形成と「看護覚え書」章分担「看護覚え書」序章を熟読し、「病氣は回復過程」ということばについて、あなたの考えをノートに書く。 |
| 9             | 5/23  | 木  | 2  | 近藤誓子 | 講義室1 | 【ナイチンゲール②】<br>「看護覚え書き」1～13章に書かれてある「看護であること 看護でないこと」<br>【グループ発表】: 事前課題である章の「看護であること 看護でないこと」を発表する。<br>【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】グループ内で発表準備<br>・「看護覚え書き」1～13章を分担する。<br>・決められた章を読み、用紙に「看護であること 看護でないこと」を記載する、もしくはノートに書く。<br>・時間外に集まり、グループとしての意見をまとめておく。<br>【事後課題】他グループの発表を聞き、興味や関心をもった章を選択し、その内容についてノートに書く。       |
| 10            | 5/30  | 木  | 1  | 近藤誓子 | 講義室1 | 【ヘンダーソン】<br>1. ヘンダーソンの経歴と業績 2. ヘンダーソンの生きた時代 3. 看護独自の機能とは 4. 基本的看護の構成要素 5. マズローの欲求階層とヘンダーソンの14の基本的欲求の比較 6. 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件と病理的状态 7. ヘンダーソンの貢献<br>【リアクションペーパーへの記入】<br>【事前課題】「看護の基本となるもの」の8頁「はじめに」と83頁～85頁「要約」を読み、わからない用語は調べ、ノートに書く。<br>【事後課題】「皮膚の内側に入り込む」という表現について、あなたの考えをノートに書く。                               |

|  |  |  |   |      |      |  |
|--|--|--|---|------|------|--|
| 11   | 6/6  | 木  | 1 | 近藤誓子 | 講義室1 | <p>【看護師の役割と機能】</p> <p>1.ケアとは 2.看護師の基本的役割 ①コミュニケーターとしての役割 ②支援者、代弁者としての役割 ③教育者およびカウンセラーとしての役割 ④質の高い看護を実践する役割 ⑤看護におけるケアを実践する役割 3.看護職者の教育とキャリア開発</p> <p>【グループワーク】新聞記事「うつぶせで重症化回避」を読み、安全性・安楽性について話し合い、発表する。</p> <p>【リアクションペーパーへの記入】</p> <p>【事前課題】教科書39頁～61頁「看護の役割と機能」、162～168頁「看護職者の継続教育とキャリア開発」を熟読し、わからない用語を調べ、ノートに書く。</p> <p>【事後課題】日本看護協会が認定している専門資格を調べ、ノートに書く。</p> |
| 12   | 6/13   | 木  | 1 | 近藤誓子 | 講義室1 | <p>【看護を実践するための法的根拠】</p> <p>1.保健師とは、助産師とは、看護師とは 2.看護師の業務 3.看護師における法的責任</p> <p>【グループワーク】事例を読み、①Cさんが転落した要因 ②どのようにしたら転落を防止できたかを話し合い、発表する。</p> <p>【リアクションペーパーへの記入】</p> <p>【事前課題】教科書150頁～154頁「看護職の資格」、292頁～303頁「医療安全と医療の質保証」を読み、わからない用語を調べ、ノートに書く。</p> <p>【事後課題】ヒューマンエラーを引き起こす要因をあげ、防止策を考える際の注意点について調べ、ノートに書く。</p>   |
| 13   | 6/20   | 木  | 1 | 近藤誓子 | 講義室1 | <p>【看護の継続性と多職種との連携】</p> <p>1.看護サービス提供の場で働く保健・医療・福祉職の種類 2.チーム医療とは 3.看護サービス提供の場 4.地域医療連携</p> <p>【グループワーク】事例をもとに、受診から帰宅まで、どのような職種が関わっているのかを話し合い、発表する。</p> <p>【リアクションペーパーへの記入】</p> <p>【事前課題】①教科書61頁～76頁「看護の継続性と連携」を熟読し、わからない用語は調べ、ノートに書く。②看護サービス提供の場で働く保健・医療・福祉職について調べノートに書く(教科書366頁参照)。</p> <p>【事後課題】看護の継続性と多職種の連携・協働はなぜ重要かを考え、ノートに書く。</p>                          |
| 14   | 6/27   | 木  | 1 | 近藤誓子 | 講義室1 | <p>【日本における看護の歴史】</p> <p>1.日本における近代看護教育の導入 2.わが国の看護制度に関する規定(第二次世界大戦前) 3.第二次世界大戦後における看護の変遷【リアクションペーパーへの記入】</p> <p>【事前課題】教科書11頁～20頁「看護の歴史」、138頁～150頁「職業としての看護」、168～183頁「看護職の養成制度の課題」を熟読し、わからない用語は調べ、ノートに書く。</p> <p>【事後課題】看護師・保健師・助産師・准看護師それぞれの資格を取得するまでの流れを調べ、養成制度の課題を考え、ノートに書く。</p>  |
| 15   | 7/11   | 木  | 1 | 近藤誓子 | 講義室1 | <p>【看護における倫理と価値】【まとめ】</p> <p>1.倫理と道徳、法 2.看護学生としての生活上の倫理 3.看護倫理とは… 4.看護実践にとって重要な倫理原則 5.「看護者の倫理綱領」 6.看護職が直面する倫理的問題【リアクションペーパーへの記入】</p> <p>【事前課題】教科書186頁～217頁「看護における倫理」を熟読し、わからない用語は調べ、ノートに書く。</p> <p>【事後課題】教科書215頁 考えてみよう①「患者の個人情報をもどのように扱うか」を読み、「A」の課題をノートに書く。</p>  |
| 成績評価方法・基準  |  |  |   |      |      | 定期試験(筆記試験)55%、リアクションペーパー15%、事前事後課題ノート15%、小テスト15%：合計100%で評価する。課題は決められた期日に必ず提出をする。提出されなかった場合は減点とする。  |
| 課題に対するフィードバックの方法   |  |  |   |      |      | <p>*試験は、後日、解答の解説を行う。</p> <p>*リアクションペーパーの回答は、次の授業でコメントをする。</p> <p>*「事前事後課題ノート」は授業最終日に集め、複数教員で課題を確認し、返却する。</p> <p>*「ワークシート兼授業資料」は、授業日の1週間前にクラスルームに配信する。印刷をし、課題に取り組み。授業終了後、「ワークシート兼授業資料」は提出し、内容確認後、返却する。</p>  |
| 授業外における学習(予習・復習)   |  |  |   |      |      | 看護とは何かということについて考えられるように、教科書以外の文献も必ず読み、主体的に学習しましょう。授業計画に沿って教科書で予習し、授業後は、教科書、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこないましょう。「事前課題」はわからない用語を調べノートに書きます。「事後課題」もノートに書きます。A4のノートを準備してください。課題ごとに、ノートには○回目、日付、課題名を書いてから課題に取り組みましょう。さらに、ノートにはインデックスを張ってください。事前・事後課題の時間は授業ごとに概ね60分以上が必要です。   |
| 教科書・参考文献等  | 教科書  | 茂野香おる他『<系統看護学講座 専門分野 I >>基礎看護学[1]看護学概論(第17版)』(医学書院、2020年) ISBN:9784260038621         |   |      |      |  |
|  |  | フロレンス・ナイチンゲール 著；湯橋ます[ほか] 翻訳『看護覚え書～看護であること看護でないこと～ 第8版』(現代社、2023年) ISBN:9784874741993 |   |      |      |  |
|  |  | ヴァージニア・ヘンダーソン著；湯橋ます他訳『看護の基本となるもの』(日本看護協会出版会、2016年)ISBN:9784818019966                 |   |      |      |  |
| 参考書  | 授業中に適宜紹介します。   |  |   |      |      |  |
|  | 山口瑞穂子編著：『パワーアップ問題演習基礎看護学 新訂版 第2版』(サイオ出版、2019年) ISBN:9784907176 |  |   |      |      |  |
| その他  | その他  | 特になし   |   |      |      |  |
| 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。 |  |  |   |      |      |  |

|                  |  |   |    |       |      |   |
|------------------|--|---|----|-------|------|---|
| 科目コード            | 22-11310   |   |    |       |      |   |
| 授業科目名            | 地域・在宅看護概論Ⅱ(在宅看護論)  |   |    |       |      |   |
| 配当年次             | 2学年  |   |    |       |      |   |
| 開講時期             | 前期   |   |    |       |      |   |
| 必修・選択・自由         | 必修   |   |    |       |      |   |
| 単位               | 1単位  |   |    |       |      |   |
| 時間数              | 15時間   |   |    |       |      |   |
| 授業形態             | 講義   |   |    |       |      |   |
| 担当教員             | 小林 美奈子、増野 章子、赤羽根 明佳  |   |    |       |      |   |
| 実務家教員            | 看護職:小林美奈子 増野章子 赤羽根明佳   |   |    |       |      |   |
| 授業科目の概要          | 地域・在宅における看護活動の変遷と現状、地域包括ケアシステムにかかわる様々な法・制度について、具体的な内容を学ぶ。また、地域・在宅看護の対象者の障害の指標等も習得する。これらの知識を概観し、地域・在宅に暮らす療養者の全体像を把握すると共に、生活を捉えた在宅看護の特徴を学び、在宅看護の概念を学習する。さらに、地域・在宅で暮らす療養者とその家族を支える多機関・多職種との連携、協働の意義と方法を理解し、療養者とその家族のQOL(生活の質)を高める看護の役割について学習する。 |   |    |       |      |   |
| 授業の到達目標          | 1. 地域・在宅看護の対象者の各ライフステージの特徴とその多様性を理解できる。<br>2. 地域で生活する人の各ライフステージの特徴に応じた看護の役割が理解できる。<br>3. 地域・在宅看護の対象である家族について基本的な理解ができる。<br>4. 在宅療養を支える様々な制度について理解し、効果的な活用について考えることができる。<br>5. 地域・在宅看護実践の場で、看護師と連携して働く保健医療福祉専門職の役割を理解できる。                     |   |    |       |      |   |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP3に該当。  |   |    |       |      |   |
| 特に関連する科目         | 看護統合実習Ⅰ(くらしの中の看護)、地域・在宅看護論実習 看護学専門科目(基礎・成人・老年・小児・精神・公衆衛生看護学の概論や方法論) 家族看護論 社会福祉学 関係法規 保健医療福祉行政論   |   |    |       |      |   |
| 授業の具体的な進め方       | 講義の事前や事後課題による個人ワークをもとに、講義やグループワークによる授業で内容を深めながら進める。授業ごとにリアクションシートの提出や課題などを提示する。  |   |    |       |      |   |
| 授業計画             |  |   |    |       |      |   |
| 回数               | 月日   | 曜日  | 時限 | 教員    | 教室   | 内容  |
| 1                | 4/11   | 木   | 4  | 小林美奈子 | 講義室2 | 地域・在宅で生活する多様な看護の対象の理解:ライフステージによる看護の対象、健康レベル等【到達目標 1】<br>【事前学習】教科書のP58～P75 までを読んでおく<br>【事後学習】小児期、成人期、老年期等のライフステージに応じた在宅看護の特徴をまとめる          |
| 2                | 4/25   | 木   | 4  | 小林美奈子 | 講義室2 | 地域・在宅看護の対象である家族の理解【到達目標 1, 2】<br>【事前学習】教科書のP75～P85 までを読んでおく 教科書のP96～P101のワークシート<br>【事後学習】教科書のP96～P101のワークシート                              |
| 3                | 5/9  | 木   | 4  | 小林美奈子 | 講義室2 | 家族システム論からみる家族の理解と看護【到達目標 1, 2】<br>【事前学習】教科書のP85～P94の事例を読み込んでおく<br>【事後学習】教科書のP96～P101のワークシートを完成し次回、提出<br>教科書P95の学習目標①②について各400字～600字でまとめる。 |
| 4                | 5/16   | 木   | 4  | 小林美奈子 | 講義室2 | 地域におけるライフステージに応じた看護【到達目標 3】<br>【事前学習】教科書のP117～P132 までを読んでおく<br>【事後学習】授業で配布した資料に基づいてまとめる。次回に提出する。  |
| 5                | 5/23   | 木   | 4  | 小林美奈子 | 講義室2 | 地域・在宅看護実践の場と連携【到達目標 4】<br>【事前学習】教科書のP144～P162 までを読んでおく<br>【事後学習】授業で配布した資料に基づいてまとめる。次回に提出する。ワークP163～P165                                   |
| 6                | 5/30   | 木   | 4  | 小林美奈子 | 講義室2 | 地域・在宅看護にかかわる制度と活用:①介護保険・医療保険制度【到達目標 4, 5】<br>【事前学習】教科書のP168～P177 までを読んでおく<br>【事後学習】講義で学んだ事例を通した効果的な活用についてまとめる。事例は教科書p98～p99               |
| 7                | 6/6  | 木   | 4  | 小林美奈子 | 講義室2 | 地域・在宅看護にかかわる制度と活用:②地域・在宅看護にかかわる医療提供体制【到達目標 4, 5】<br>【事前学習】教科書のP178～P199 までを読んでおく<br>【事後学習】介護保険制度と医療保険制度の訪問看護の違いについて調べまとめる。次回に提出する。        |
| 8                | 6/6  | 木   | 5  | 小林美奈子 | 講義室2 | 地域・在宅看護にかかわる制度と活用:③地域保健にかかわる法制度【到達目標 4, 5】<br>【事前学習】教科書のP200～P210までを読んでおく<br>【事後学習】地域保健を支える法制度についてまとめる。次回に提出する。                           |
| 成績評価方法・基準        | 定期試験(期末試験):80%、事前事後学習の提出物:20%  |   |    |       |      |   |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回の授業でフィードバックを行う。  |   |    |       |      |   |
| 授業外における学習(予習・復習) | 本科目は看護統合実習Ⅱ(くらしの中の危機の看護)および地域・在宅看護論実習の基礎となる授業科目であり、事前・事後学習は実習前の学習にもなり得る。地域・在宅の生活に欠かせない関連法規や社会資源の復習など、講義ごとに120分の学習時間が必要である。また、看護統合実習Ⅰで触れた社会資源やそれらを含む地域包括ケアシステムをより理解することに繋がるため、意欲的に取り組んでほしい。   |   |    |       |      |   |
| 教科書・参考文献等        | 教科書  | 河原加代子著『地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論Ⅰ 第5版第6刷(系統看護学講座 統合分野Ⅰ)』(医学書院,2022)ISBN:9784260046893 |    |       |      |   |
|                  | 参考書  | 池西静江 著『基礎からわかる地域・在宅看護論～必須の知識・考え方から事例演習まで～(ブチナース)』(照林社,2021年)ISBN:9784796525459  |    |       |      |   |
|                  | その他  | 特になし  |    |       |      |   |
| その他              | 【実務家経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての実務経験を活かした講義を行う。  |   |    |       |      |   |

|                  |  |  |    |       |      |                    |
|------------------|--|--|----|-------|------|--------------------|
| 科目コード            | 22-11315   |  |    |       |      |                    |
| 授業科目名            | 成人看護方法論Ⅰ   |  |    |       |      |                    |
| 配当年次             | 2学年  |  |    |       |      |                    |
| 開講時期             | 後期   |  |    |       |      |                    |
| 必修・選択・自由         | 必修   |  |    |       |      |                    |
| 単位               | 2単位  |  |    |       |      |                    |
| 時間数              | 30時間   |  |    |       |      |                    |
| 授業形態             | 講義   |  |    |       |      |                    |
| 担当教員             | 小磯京子、山中京子、工藤久美子、重石真宏   |  |    |       |      |                    |
| 実務家教員            | 看護職:小磯京子 山中京子 工藤久美子 重石真宏   |  |    |       |      |                    |
| 授業科目の概要          | <p>成人期にある人の体験と反応及び健康問題の特性を理解し、基礎知識を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>急性期及びクリティカル期にある成人と家族の特徴、周手術期・クリティカル期にある成人の体験と反応を理解する。</li> <li>回復期にある成人の看護として、回復期にある成人の体験と反応と健康問題の特性、障害と障害者の概念、循環障害・運動障害・感覚器障害のある成人のリハビリテーションを学ぶ。</li> <li>慢性期及び慢性病の概念、慢性期にある成人の体験と反応及び健康問題の特性、慢性期にある成人及び家族の体験と反応の理解と援助について学ぶ。</li> <li>終末期にある成人とその家族の特徴や終末期の概念、終末期にある成人の体験と反応及び健康問題の特性と援助について学ぶ。</li> </ol> |  |    |       |      |                    |
| 授業の到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>成人期にある対象者のもつ健康問題について理解できる。</li> <li>対象自らが社会生活を維持・向上するために必要な看護援助に関する知識や技術を身につける。</li> </ol>  |  |    |       |      |                    |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP3に該当。  |  |    |       |      |                    |
| 特に関連する科目         | 「成人看護方法論Ⅰ」では、「成人看護学概論」をもとに、成人看護の目的および方法論を学習する。   |  |    |       |      |                    |
| 授業の具体的な進め方       | 講義、グループワーク、演習で構成されている。講義・演習の内容の理解を深めるために、課題レポート、グループワーク、テストを行う。  |  |    |       |      |                    |
| <b>授業計画</b>      |  |  |    |       |      |                    |
| 回数               | 月日   | 曜日   | 時限 | 教員    | 教室   | 内容                 |
| 1                | 9/25   | 水  | 2  | 小磯京子  | 講義室2 | ガイダンス・急性期看護の特徴(1)  |
| 2                | 10/2   | 水  | 2  | 小磯京子  | 講義室2 | 急性期看護の特徴(2)        |
| 3                | 10/9   | 水  | 2  | 小磯京子  | 講義室2 | 周手術期の術前・術中の看護①     |
| 4                | 10/23  | 水  | 2  | 小磯京子  | 講義室2 | 麻酔と侵襲、術中の看護②       |
| 5                | 10/30  | 水  | 2  | 小磯京子  | 講義室2 | 術後の看護              |
| 6                | 11/6   | 水  | 2  | 工藤久美子 | 講義室2 | 循環機能の再確立が必要な患者の看護  |
| 7                | 11/13  | 水  | 2  | 山中京子  | 講義室2 | 運動機能の再確立が必要な患者の看護  |
| 8                | 11/20  | 水  | 1  | 長島 緑  | 講義室2 | 脳神経機能の再確立が必要な患者の看護 |
| 9                | 11/20  | 水  | 2  | 長島 緑  | 講義室2 | 脳神経機能の再確立が必要な患者の看護 |
| 10               | 11/27  | 水  | 2  | 工藤久美子 | 講義室2 | 呼吸機能の再確立が必要な患者の看護  |
| 11               | 12/4   | 水  | 2  | 工藤久美子 | 講義室2 | 摂食機能の再確立が必要な患者の看護  |
| 12               | 12/11  | 水  | 2  | 小磯京子  | 講義室2 | 消化機能の再確立が必要な患者の看護  |
| 13               | 12/18  | 水  | 2  | 山中京子  | 講義室2 | 排泄機能の再確立が必要な患者の看護  |
| 14               | 1/8  | 水  | 2  | 山中京子  | 講義室2 | 排泄機能の再確立が必要な患者の看護  |
| 15               | 1/15   | 水  | 2  | 小磯京子  | 講義室2 | まとめ、小テスト           |
| 成績評価方法・基準        | 課題レポート・ミニレポート 30% 定期試験 70%<br>* 試験については返却し、解答を配布し解説する。   |  |    |       |      |                    |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された課題レポート等を確認、指導を行い、コメントをして学生に返却する。  |  |    |       |      |                    |
| 授業外における学習(予習・復習) | 授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。  |  |    |       |      |                    |
| 教科書<br>・参考文献等    | 教科書  | 林直子/佐藤まゆみ編集:『看護学テキストNice 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 改訂第4版』(南江堂、2023年)ISBN:9784524232314<br>鈴木久美/旗持知恵子/佐藤直美編集:『看護学テキストNice 成人看護学 慢性期看護病氣とともに生活する人を支える 改訂第4版』(南江堂、2023年)ISBN:9784524234363 |    |       |      |                    |
|                  | 参考書  | 講義内にて、適宜紹介する。  |    |       |      |                    |
|                  | その他  | 特になし   |    |       |      |                    |
| その他              | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。   |  |    |       |      |                    |



|                  |   |  |    |      |            |  |
|------------------|---|--|----|------|------------|--|
| 科目コード            | 22-11318  |  |    |      |            |  |
| 授業科目名            | 老年看護学方法論 I  |  |    |      |            |  |
| 配当年次             | 2学年   |  |    |      |            |  |
| 開講時期             | 後期  |  |    |      |            |  |
| 必修・選択・自由         | 必修  |  |    |      |            |  |
| 単位               | 2単位   |  |    |      |            |  |
| 時間数              | 30時間  |  |    |      |            |  |
| 授業形態             | 演習  |  |    |      |            |  |
| 担当教員             | 山下 知子   |  |    |      |            |  |
| 実務家教員            | 看護職：山下 知子   |  |    |      |            |  |
| 授業科目の概要          | 高齢者の生活の質(Quality of life)の維持向上を目指し、健やかな老年期を過ごせるように生活を支える視点から看護を学ぶ。また、高齢者のさまざまな状態に応じた健康維持・回復を支えることができる知識と技術を修得する。  |  |    |      |            |  |
| 授業の到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の疾病に伴う生活機能の変化について理解することができる。</li> <li>2. 高齢者のさまざまな健康状態に応じたコミュニケーションについて理解することができる。</li> <li>3. 高齢者のさまざまな健康状態や受療状況に応じた看護について理解することができる。</li> <li>4. 認知症について理解を深め、認知症看護について理解することができる。</li> <li>5. 高齢者に多くみられる疾患や症状の病態と看護について理解することができる。</li> </ol> |  |    |      |            |  |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP3に該当。   |  |    |      |            |  |
| 特に関連する科目         | 人体の構造と機能学 I, II, III, IV 老年看護学概論 病態治療学 I, II, III, IV   |  |    |      |            |  |
| 授業の具体的な進め方       | 【授業形態】講義の他、グループワークやレポート作成など。<br>【アクティブラーニングの取入れ状況】提示された課題について調べ学習をもとにディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。<br>【ITを活用した双方向授業】Ipadを活用し、Google classroomでの授業課題や資料の配信、Google formでの回答などを行う。   |  |    |      |            |  |
| 授業計画             |   |  |    |      |            |  |
| 回数               | 月日  | 曜日   | 時限 | 教員   | 教室         | 内容   |
| 1                | 9/27  | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】授業ガイダンス、高齢者看護の特徴、高齢者の理解(高齢者の特徴)<br>【事前課題】2年次前期の老年看護学概論で学んだ高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者の特徴(特に身体面)についてまとめておく(30分)                            |
| 2                | 10/4  | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者の主な症候と看護(老年症候群)<br>【事前課題】2年次前期の老年看護学概論で学んだ高齢者に起こりやすい症状の特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】授業を通して、老年症候群とは、せん妄、フレイルについてまとめておく(30分)                                 |
| 3                | 10/11   | 金  | 3  | 山下知子 | 成人・老年看護演習室 | 【演習・グループワーク】高齢者の理解 高齢者擬似体験<br>【事前課題】2年次前期の老年看護学概論で学んだ高齢者の身体的特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】演習を行ってわかったことをまとめる(30分)   |
| 4                | 10/25   | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(コミュニケーション, 白内障, 緑内障含む)<br>【事前課題】1回目～3回目の授業で学んだコミュニケーションに影響を及ぼすと考えられる高齢者の身体的特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者との効果的なコミュニケーションについてわかったことをまとめる(30分) |
| 5                | 11/1  | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(食事と栄養)<br>【事前課題】一般的な嚥下機能について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】提示された事例について調べる(30分)   |
| 6                | 11/22   | 木  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(排泄)<br>【事前課題】自己の排泄記録をつけてまとめておく。排泄の援助方法について復習しておく(30分)<br>【事後課題】提示された事例について調べる(30分)  |
| 7                | 11/29   | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(生活リズム)<br>【事前課題】睡眠と活動についてまとめておく(30分)<br>【事後課題】授業で学習した内容についてまとめる(30分)  |
| 8                | 12/6  | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(清潔・皮膚掻痒・褥瘡含む)<br>【事前課題】皮膚の構造と機能について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に多い皮膚疾患と看護についてまとめる(30分)                                       |
| 9                | 12/13   | 金  | 2  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】健康逸脱からの回復を促す看護(脱水、発熱)<br>【事前課題】一般的な水分出納について復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者が脱水になりやすい理由と援助方法についてまとめる(30分)   |
| 10               | 12/13   | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】健康逸脱からの回復を促す看護(虚血性心疾患)<br>【事前課題】血管系の機能と構造について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい心疾患についてまとめる(30分)  |
| 11               | 12/20   | 金  | 2  | 坂本律子 | 講義室2       | 【講義】心臓リハビリテーションの実際<br>【事前課題】心臓リハビリテーションについて調べる(30分)<br>【事後課題】講義を聞き心臓リハビリテーションについて学んだことをまとめる(30分)   |
| 12               | 12/20   | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者に特有な疾患と看護(呼吸器疾患)<br>【事前課題】呼吸器の機能と構造について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい呼吸器疾患の病態と看護についてまとめる(30分)                                       |
| 13               | 1/10  | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】高齢者に特有な疾患と看護(感染症)<br>【事前課題】これまでに学んだ感染症について復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい感染症と予防・看護についてまとめる(30分)  |
| 14               | 1/17  | 金  | 3  | 山下知子 | 講義室2       | 【講義】健康逸脱からの回復を促す看護(認知症)<br>【事前課題】加齢による物忘れと認知症の違いについてまとめておく(30分)<br>【事後課題】四大認知症の病態と看護についてまとめる(30分)  |
| 15               | 1/24  | 金  | 3  | 外部講師 | 講義室2       | 【講義】認知症ケアの実際<br>【事前課題】認知症の基礎知識について確認しておく(30分)<br>【事後課題】講義を聞き認知症看護について考えたことをまとめる(30分)   |
| 成績評価方法・基準        | レポート課題: 40点 筆記試験: 60点   |  |    |      |            |  |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された課題は、学習者の理解状況に応じてコメントするとともに、授業で解説を行いフィードバックします。   |  |    |      |            |  |
| 授業外における学習(予習・復習) | 事前課題・事後課題として、授業ごとに示していますので確認の学習してください。  |  |    |      |            |  |
| 教科書・参考文献等        | 教科書   | 北川公子 他『系統看護学講座-専門分野 老年看護学第9版』(医学書院、2018年) ISBN:9784260031868<br>鳥羽研二 他『系統看護学講座-専門分野 老年看護 病態・疾患論第5版』(医学書院、2018年) ISBN:9784260031721 |    |      |            |  |
|                  | 参考書   | 亀井智子 他『根拠と事故防止からみた老年看護技術第3版』(医学書院、2020年) ISBN:9784260043267  |    |      |            |  |
|                  | その他   | 適宜参考文献を配布します。  |    |      |            |  |
|                  | その他   | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての実務経験を活かした講義(演習)を行う。   |    |      |            |  |

|                  |   |  |    |      |      |   |
|------------------|---|--|----|------|------|---|
| 科目コード            | 22-11324  |  |    |      |      |   |
| 授業科目名            | 母性看護学方法論Ⅰ   |  |    |      |      |   |
| 配当年次             | 2学年   |  |    |      |      |   |
| 開講時期             | 後期  |  |    |      |      |   |
| 必修・選択・自由         | 必修  |  |    |      |      |   |
| 単位               | 2単位   |  |    |      |      |   |
| 時間数              | 30時間  |  |    |      |      |   |
| 授業形態             | 講義  |  |    |      |      |   |
| 担当教員             | 今井 充子   |  |    |      |      |   |
| 実務家教員            | 看護職:今井充子  |  |    |      |      |   |
| 授業科目の概要          | 周産期にある妊産婦及び新生児の正常な経過及びその看護、また、異常時に必要な看護を学習する。<br>妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児への看護については各時期の身体的、心理的、社会的経過が安全・安楽であるようにセルフケア能力を高めることや発達の危機等特徴的な看護について学習する。      |  |    |      |      |   |
| 授業の到達目標          | 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の身体的・生理的・社会的特徴を説明できる。<br>2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象およびその家族への看護について説明できる。<br>3. 異常のある妊産婦と新生児への看護を説明できる。                            |  |    |      |      |   |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP3に該当。   |  |    |      |      |   |
| 特に関連する科目         | 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅱ 病態治療学Ⅴ 母性看護学実習 看護研究(母性看護学領域) 小児看護学  |  |    |      |      |   |
| 授業の具体的な進め方       | 教科書を使用し講義を行います。<br>授業の要点がまとめられるよう、母性看護学概論で使用したルーズリーフを用意してください。<br>この科目は、母性看護の実践において基礎となります。   |  |    |      |      |   |
| <b>授業計画</b>      |   |  |    |      |      |   |
| 回数               | 月日  | 曜日   | 時限 | 教員   | 教室   | 内容  |
| 1                | 9/25  | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | ガイダンス(シラバス確認など)<br>子どもを産み育てることと看護 妊娠期における看護① 妊娠期の生理 |
| 2                | 10/2  | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 妊娠期における看護② 母体の生理的变化 妊婦期の心理社会的特性                     |
| 3                | 10/11   | 金  | 2  | 今井充子 | 講義室2 | 妊娠期における看護③ 妊娠とその診断                                  |
| 4                | 10/25   | 金  | 2  | 今井充子 | 講義室2 | 妊娠期における看護④ 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント 母子保健サービス              |
| 5                | 10/30   | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 妊娠期における看護⑤ 妊婦の健康相談 異常のある妊婦の看護                       |
| 6                | 11/6  | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 分娩期における看護① 分娩の要素と経過                                 |
| 7                | 11/13   | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 分娩期における看護② 産婦・胎児および家族のアセスメントと看護                     |
| 8                | 11/22   | 金  | 2  | 今井充子 | 講義室2 | 分娩期における看護③ 分娩期の看護の実際 異常のある産婦の看護                     |
| 9                | 11/27   | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 新生児期における看護① 新生児の生理                                  |
| 10               | 12/6  | 金  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 新生児期における看護② 新生児のアセスメント                              |
| 11               | 12/11   | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 新生児期における看護③ 新生児の看護                                  |
| 12               | 12/20   | 金  | 4  | 今井充子 | 講義室2 | 産褥期における看護① 産褥経過                                     |
| 13               | 1/8   | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 産褥期における看護② 産褥のアセスメント                                |
| 14               | 1/15  | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 産褥期における看護③ 産褥と家族の看護                                 |
| 15               | 1/22  | 水  | 1  | 今井充子 | 講義室2 | 産褥期における看護④ 施設退院後の看護 異常のある産褥の看護                      |
| 成績評価方法・基準        | 小テストおよび定期テストにて評価します。  |  |    |      |      |   |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業中に解説します。  |  |    |      |      |   |
| 授業外における学習(予習・復習) | 授業計画に沿って教科書・配布資料・参考図書で予習および復習をしてください。予習・復習は合計で30分以上必要です。<br>事前学修 授業計画に沿って教科書の該当項を読む。<br>事後学修 ①授業中に疑問に持ったことを調べる。<br>②資料と教科書の内容を照らし合わせてルーズリーフに整理する。 |  |    |      |      |   |
| 教科書<br>・参考文献等    | 教科書   | 森恵美著『<系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 母性看護学[2] 母性看護学各論(第14版)』(医学書院、2021年) ISBN: 9784260042239 |    |      |      |   |
|                  | 参考書   | 井上裕美他『病気が見える Vol.10 産科(第4版)』(メディックメディア、2018年) ISBN: 9784896327137            |    |      |      |   |
|                  |   | 前原澄子編『新看護観察のキーワードシリーズ母性Ⅱ』(中央法規出版、2011年) ISBN: 9784805834077                  |    |      |      |   |
|                  |   | 新藤幸恵著『母性の心理社会的側面と看護ケア』(医学書院、1990年) ISBN: 9784260348737                       |    |      |      |   |
| その他              | Marshall H. Klaus / John H. Kennell著『親と子のきずな』(医学書院、1985年)   |  |    |      |      |   |
| その他              | さくらももこ著『そういうふうになっている』(新潮社、1995年) ISBN: 9784101388212  |  |    |      |      |   |
| その他              | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義を行います。  |  |    |      |      |   |

|                  |   |  |    |       |  |
|------------------|---|--|----|-------|--|
| 科目コード            | 22-11327  |  |    |       |  |
| 授業科目名            | 精神看護学方法論 I  |  |    |       |  |
| 配当年次             | 2学年   |  |    |       |  |
| 開講時期             | 後期  |  |    |       |  |
| 必修・選択・自由         | 必修  |  |    |       |  |
| 単位               | 2単位   |  |    |       |  |
| 時間数              | 30時間  |  |    |       |  |
| 授業形態             | 講義  |  |    |       |  |
| 担当教員             | 吉岡 一実、菊地 淳、嶋田 由枝恵、田中 勇気   |  |    |       |  |
| 実務家教員            | 看護師：吉岡 一実、菊地 淳、嶋田 由枝恵、田中 勇気   |  |    |       |  |
| 授業科目の概要          | <p>様々な精神疾患や精神障害者を理解し、精神看護学の基礎的知識と看護を学習する。<br/>精神科医療がどのようなものか行われている治療や精神看護活動を学習する。</p> <p>1.精神症状のアセスメント方法の基本を学ぶ。<br/>2.精神障害を持つ人(生活障害)を理解する。<br/>3.主な精神疾患・精神症状における病態、診断、回復過程、治療の特徴を理解し精神障害 を持つ人への働きかけの援助法を理解する。</p> |  |    |       |  |
| 授業の到達目標          | <p>精神障害のある人への看護の基本が理解できる。</p> <p>1. 主な精神疾患と治療が理解できる。<br/>2. 主な精神症状と看護の基本が理解できる。</p>   |  |    |       |  |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP3に該当。   |  |    |       |  |
| 特に関連する科目         | メンタルヘルス コミュニケーション論 心理学 精神看護学概論 病態治療学VI 臨床薬理学  |  |    |       |  |
| 授業の具体的な進め方       | 配布資料と教科書を中心に講義形式の授業を行う。<br>・精神疾患に特徴的な症状や看護援助に必要な技術については、視聴覚教材などを多く用い理解に繋げる。   |  |    |       |  |
| <b>授業計画</b>      |   |  |    |       |  |
| 回数               | 月日  | 曜日   | 時限 | 教員    | 教室 内容  |
| 1                | 11/5  | 火  | 3  | 吉岡 一実 | 講義室2 精神障害と治療と環境                                |
| 2                | 11/5  | 火  | 4  | 嶋田由枝恵 | 講義室2 精神科医療の対象とコミュニケーションの特徴                     |
| 3                | 11/12   | 火  | 3  | 菊地淳   | 講義室2 精神疾患と病態・治療・検査・看護 一統合失調症－(1)               |
| 4                | 11/12   | 火  | 4  | 菊地淳   | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一統合失調症－(2)               |
| 5                | 11/19   | 火  | 3  | 菊地淳   | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一統合失調症－(3)               |
| 6                | 11/19   | 火  | 4  | 菊地淳   | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一統合失調症－(4)               |
| 7                | 11/26   | 火  | 3  | 田中勇気  | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一気分障害－(1)                |
| 8                | 11/26   | 火  | 4  | 田中勇気  | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一気分障害－(2)                |
| 9                | 12/3  | 火  | 3  | 田中勇気  | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一気分障害－(3)                |
| 10               | 12/3  | 火  | 4  | 田中勇気  | 講義室2 精神疾患と病態・治療・検査・看護 一児童精神障害－                 |
| 11               | 12/10   | 火  | 3  | 嶋田由枝恵 | 講義室2 精神疾患と病態・治療・検査・看護 一ストレス障害、強迫障害、パニック障害 PTSD |
| 12               | 12/10   | 火  | 4  | 嶋田由枝恵 | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一パーソナリティ障害－              |
| 13               | 12/17   | 火  | 3  | 菊地淳   | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一アルコール依存症－(1)            |
| 14               | 12/17   | 火  | 4  | 菊地淳   | 講義室2 精神疾患と病態・検査・治療・看護 一アルコール依存症－(2)            |
| 15               | 1/7   | 火  | 3  | 嶋田由枝恵 | 講義室2 精神疾患と病態・治療・検査・看護 一摂食障害－                   |
| 成績評価方法・基準        | 試験(80%)課題や出席等(20%)  |  |    |       |  |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業ごとに国試に係るKeywordを提示するので、復習を欠かさないようにする。   |  |    |       |  |
| 授業外における学習(予習・復習) | 専門的な用語や内容が多いため、予習・復習をすること。また、授業中ショートテストを実施するので復習は必須である。自己にて解決できない疑問があれば、積極的に教員に尋ねること。また、この科目の講義内容は看護師国家試験に頻出のため、毎回復習すること。講義資料は臨地実習で使用するため、キーワード等は確実に理解しておくこと。   |  |    |       |  |
| 教科書<br>・参考文献等    | 教科書   | 萱間真美著「精神看護学Iこころの健康と地域包括ケア(改訂第3版)」現代に生きる人々のこころの健康を支える ISBN-10: 4524227814 |    |       |  |
|                  | 参考書   | 適宜紹介する   |    |       |  |
|                  | その他   |  |    |       |  |
| その他              | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。  |  |    |       |  |



|                  |   |  |    |  |      |   |
|------------------|---|--|----|--|------|---|
| 科目コード            | 22-11331  |  |    |  |      |   |
| 授業科目名            | 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ  |  |    |  |      |   |
| 配当年次             | 2学年   |  |    |  |      |   |
| 開講時期             | 後期  |  |    |  |      |   |
| 必修・選択・自由         | 選択  |  |    |  |      |   |
| 単位               | 2単位   |  |    |  |      |   |
| 時間数              | 30時間  |  |    |  |      |   |
| 授業形態             | 講義  |  |    |  |      |   |
| 担当教員             | 加藤 さゆり、坂巻 つや子、松崎 一基   |  |    |  |      |   |
| 実務家教員            | 看護職:加藤 さゆり、坂巻 つや子、松崎 一基   |  |    |  |      |   |
| 授業科目の概要          | 公衆衛生看護学の概念枠組みについて、歴史の変遷を経て至った活動の理念と目的を理解する。また、広範な対象やあらゆる健康レベルに対して、社会的条件の中で健康問題に対応していく上での考え方、生活集団の健康課題の捉え方や予防的対応について学ぶ。そして組織的解決過程を学習し、公衆衛生看護の基本的知識と技術を理解する。公衆衛生看護の構成分野や活動対象となる人々の特質、公衆衛生看護特有の方法論についても触れ、これらを通して公衆衛生看護学の全体像を把握する。 |  |    |  |      |   |
| 授業の到達目標          | 1. 個人および家族の発達段階を理解し、各期の保健活動を理解する。<br>2. 各期、主な疾病における健康課題を理解し、具体的な保健師活動の概要を理解する。<br>3. 各種保健施策の実際、各種保健計画の概要を理解する。<br>4. 施策を支える関係法規が理解できる。<br>5. 個人・家族、集団を支援する社会資源が理解できる。<br>6. 地域の特性を把握して地域住民との関わりが理解できる。                          |  |    |  |      |   |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP5に該当。   |  |    |  |      |   |
| 特に関連する科目         | 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ 公衆衛生学 保健統計学 疫学 保健医療福祉行政論 産業保健論 学校保健論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護支援論Ⅰ 公衆衛生看護支援論Ⅱ 地域診断  |  |    |  |      |   |
| 授業の具体的な進め方       | テキストを中心に、スライドと資料を用いた講義形式の授業とする。ゲストスピーカーの講話も予定している。  |  |    |  |      |   |
| 授業計画             |   |  |    |  |      |   |
| 回数               | 月日  | 曜日   | 時限 | 教員                                     | 教室   | 内容  |
| 1                | 11/19   | 火  | 2  | 加藤 さゆり                                 | 講義室2 | 【授業ガイダンス】授業の進め方、科目の評価方法、倫理観の重要性<br>【講義】公衆衛生看護活動の実際、社会環境の変化と健康課題、保健師が行う保健活動                                    |
| 2                | 11/26   | 火  | 1  | 坂巻つや子                                  | 講義室2 | 【講義】母子保健活動:母子保健の動向、母子保健における健康課題と支援、妊産婦の健康、乳幼児の発育・発達と保健指導、生涯を通じた女性の健康支援  |
| 3                | 11/26   | 火  | 2  | 坂巻つや子                                  | 講義室2 | 【講義】母子保健活動:乳幼児健康診査、乳幼児の健康相談、乳幼児の健康教育、児童虐待の防止、健康上のリスクをもつ母子への保健指導、母子保健指導の事例検討                                   |
| 4                | 12/3  | 火  | 1  | 松崎一基                                   | 講義室2 | 【講義】成人保健活動:成人保健活動の実際、健康増進事業、健康増進法、健康日本21、成人期における保健師活動、特定健康診査・特定保健指導   |
| 5                | 12/3  | 火  | 2  | 松崎一基                                   | 講義室2 | 【講義】成人保健活動:成人期の主な生活習慣病と保健指導、がん予防、がん対策、成人期の保健指導の事例検討   |
| 6                | 12/10   | 火  | 1  | 坂巻つや子                                  | 講義室2 | 【講義】高齢者保健活動:高齢者保健施策、介護保険制度、高齢者医療確保法、地域包括ケアシステム、高齢者保健活動の実際、高齢者の疾病予防、健康づくり                                      |
| 7                | 12/10   | 火  | 2  | 坂巻つや子、<br>ゲストスピーカー(認知症サポーター養成講座)       | 講義室2 | 【講義】高齢者保健活動:虚弱高齢者、要支援・要介護高齢者への保健師活動、介護者支援、認知症高齢者と家族への支援、高齢者への虐待防止   |
| 8                | 12/17   | 火  | 1  | 加藤 さゆり                                 | 講義室2 | 【講義】難病保健活動:難病療養者と家族の健康と生活、対象の理解と保健師活動、在宅難病療養者の主な症状・障害と保健師活動、難病療養者と家族への社会資源、患者会・家族会                            |
| 9                | 12/17   | 火  | 2  | 加藤 さゆり                                 | 講義室2 | 【講義】障害者(児)保健活動:障害者(児)保健概論、障害者保健の理念、障害の概念、障害者(児)保健施策の変遷、障害者(児)保健施策、障害者(児)の生活特性の自立支援、障害者(児)への保健師活動、発達障害         |
| 10               | 1/7   | 火  | 1  | 松崎一基                                   | 講義室2 | 【講義】精神保健活動:精神保健概論、精神保健福祉活動の実際、治療に向けた個別支援、退院に向けた支援、治療継続への支援、社会復帰のための支援、精神障害者への家庭訪問                             |
| 11               | 1/7   | 火  | 2  | 松崎一基、加藤さゆり、ゲストスピーカー(精神障害を抱えながら就労している方) | 講義室2 | 【講義】精神保健活動:精神保健福祉活動におけるグループ支援、組織化活動、ハイリスク者の早期発見、精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築、社会資源の創出、精神障害者の人権を守る、地域における主な精神疾患と保健師活動 |
| 12               | 1/14  | 火  | 1  | 加藤 さゆり                                 | 講義室2 | 【講義】感染症保健活動:感染症に関わる保健師活動、平常時の活動、感染症発生時の活動、主な感染症と保健師活動、感染症対策への事例検討   |
| 13               | 1/14  | 火  | 2  | 加藤 さゆり                                 | 講義室2 | 【講義】感染症保健活動:結核対策における保健師活動、結核の発生の動向、患者教育に必要な結核の基礎知識、わが国の結核対策、結核の予防、集団感染発生時の対策、結果う対策における保健師の役割、日本版21世紀型DOTS     |
| 14               | 1/21  | 火  | 1  | 加藤 さゆり                                 | 講義室2 | 【講義】歯科口腔保健活動:歯科口腔保健概論、歯科口腔保健の理念、歯科口腔保健対策の変遷と現状、歯科口腔保健における保健師活動、ライフステージ別歯科口腔保健活動、要介護者、障害者(児)への歯科口腔保健           |
| 15               | 1/21  | 火  | 2  | 加藤 さゆり                                 | 講義室2 | 【講義】健康危機管理・災害保健活動:健康危機管理の現状、健康危機管理の過程、災害保健概論、災害保健活動の目的、災害保健施策、災害と保健師活動、平常時の災害予防対策、災害時の保健師活動、災害復旧・復興期の保健師活動    |
| 成績評価方法・基準        | 授業への出席状況や取り組み、授業ごとの課題レポート、まとめレポート、筆記試験等により総合的に評価する。   |  |    |  |      |   |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 事前・事後課題の確認、指導を行う。場合によっては、再提出が必要な場合がある。  |  |    |  |      |   |
| 授業外における学習(予習・復習) | 授業計画に沿ってテキストで予習し、講義後は、テキスト、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。   |  |    |  |      |   |
| 教科書・参考文献等        | 教科書   | 荒賀直子・後関容子編『公衆衛生看護学』第6版 データ更新版』(インターメディカル、2024)ISBN9784900828858                                      |    |  |      |   |
|                  | 参考書   | 厚生労働統計協会編『国民衛生の動向 2023/2024』(厚生労働統計協会)<br>厚生労働統計協会編『国民の福祉と介護の動向 2023/2024』(厚生労働統計協会)<br>他、講義の中で紹介する。 |    |  |      |   |
|                  | その他   | 必要に応じてプリントを配布する。   |    |  |      |   |
| その他              | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。  |  |    |  |      |   |

実務経験のある教員等による授業科目の配置(13単位分) 保健医療学部 看護学科  
旧カリキュラム(2021年度以前入学生)

省令で定める基準単位数:13単位

|       | 授業科目名       | 配当年次 | 単位数 | 時間数 | 担当教員の職位・氏名                       | 実務経験 |
|-------|-------------|------|-----|-----|----------------------------------|------|
| 1     | 老年看護方法論     | 3前   | 2   | 60  | 教授 松永智子、准教授<br>山下知子              | 看護職  |
| 2     | 小児看護方法論     | 3前   | 2   | 45  | 教授 上本野唱子、助教<br>飯泉悦子              | 看護職  |
| 3     | 母性看護方法論     | 2後   | 2   | 30  | 教授 今井充子                          | 看護職  |
| 4     | 精神看護方法論     | 3前   | 2   | 60  | 准教授 菊地淳、助教 田<br>中勇氣              | 看護職  |
| 5     | 公衆衛生看護システム論 | 4前   | 2   | 30  | 教授 加藤さゆり、助教<br>坂巻つや子、助教 松崎一<br>基 | 看護職  |
| 6     | 在宅看護論       | 3前   | 2   | 60  | 教授 小林美奈子、講師<br>増野明子              | 看護職  |
| 7     | 看護教育学       | 4前   | 2   | 30  | 教授 近藤誓子、講師 五<br>十嵐貴大             | 看護職  |
| 単位数合計 |             |      | 14  |     |                                  |      |

|               |  |    |    |                        |                       |  |
|---------------|--|----|----|------------------------|-----------------------|--|
| 科目コード         | 12-11314   |    |    |                        |                       |  |
| 授業科目名         | 老年看護方法論  |    |    |                        |                       |  |
| 配当年次          | 3学年  |    |    |                        |                       |  |
| 開講時期          | 前期   |    |    |                        |                       |  |
| 必修・選択・自由      | 必修   |    |    |                        |                       |  |
| 単位            | 2単位  |    |    |                        |                       |  |
| 時間数           | 60時間   |    |    |                        |                       |  |
| 授業形態          | 演習   |    |    |                        |                       |  |
| 担当教員          | 山下 知子、松永 智子、松本 幸枝、高谷 愛、吉村 汐里   |    |    |                        |                       |  |
| 実務家教員         | 看護職：松永 智子、山下 知子  |    |    |                        |                       |  |
| 授業科目の概要       | <p>老年期の看護について、主に高齢者の看護の基本的な援助を学びます。加齢による諸機能の低下に起因する高齢者の心身の変化や日常生活への影響を踏まえ、高齢者の生活・療養の場に応じた看護援助方法を学びます。また、老年期によくみられる疾患や症状を取り上げ、高齢者が老年期を健やかに自立した生活が送れるよう、また穏やかな死を迎えられるよう、その看護援助方法について学びます。老年期の看護に必要な基礎的能力を養うことを目指します。</p>   |    |    |                        |                       |  |
| 授業の到達目標       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の加齢に伴う変化と障害を説明することができる。</li> <li>2. 高齢者のより健やかな生活を支える看護について学ぶ。</li> <li>3. 高齢者に多い疾患や症状について、病態・検査・治療・看護を学び、看護師の役割を考えることができる。</li> <li>4. 認知症について理解を深め、認知症高齢者のケアの基本を学ぶ。</li> <li>5. 高齢者に多くみられる疾病とその看護について事例を用いて生活の視点から看護過程の展開を行い、高齢者看護を理解することができる。</li> <li>6. 高齢者に多くみられる疾病とその看護について事例を用いて生活の視点から看護過程の展開を行い、高齢者看護技術を習得することができる。</li> </ol> |    |    |                        |                       |  |
| 関連するディプロマポリシー | 看護学科DP3に該当。  |    |    |                        |                       |  |
| 特に関連する科目      | 人体構造と機能学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 老年看護学概論 生涯発達論 病態治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 家族看護学 臨床薬理学 他   |    |    |                        |                       |  |
| 授業の具体的な進め方    | <p>【授業形態】□<br/> ・講義・グループワーク・プレゼンテーション□<br/> 【アクティブラーニングの取入れ状況】□<br/> ・提示された課題について調べ学習をもとにディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。□<br/> 【ITを活用した双方向授業】□<br/> ・iPadを活用し、Google classroomでの授業課題や資料の配信、Google formでの回答などを行う。□<br/> 【その他の特記事項】□<br/> ・看護過程は個人ワークとして進めつつ、グループワークで共有を行う。発表はグループで行う。</p>   |    |    |                        |                       |  |
| 授業計画          |  |    |    |                        |                       |  |
| 回数            | 月日   | 曜日 | 時限 | 教員                     | 教室                    | 内容   |
| 1             | 4/12   | 水  | 1  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】授業ガイダンス、高齢者看護の特徴、高齢者の理解(高齢者の特徴)<br>【事前課題】2年次の老年看護学概論で学んだ高齢者の特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者の特徴(特に身体面)についてまとめておく(30分)               |
| 2             | 4/12   | 水  | 2  | 松永 智子                  | 講義室3                  | 【講義】高齢者の主な症候と看護(老年症候群)<br>【事前課題】2年次の老年看護学概論で学んだ高齢者の特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】授業を通して、老年症候群とは、せん妄、フレイルについてまとめておく(30分)                  |
| 3             | 4/19   | 水  | 1  | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 在宅看護演習室<br>成人・老年看護演習室 | 【演習・グループワーク】高齢者の理解 高齢者擬似体験演習<br>【事前課題】1回目・2回目に学んだ高齢者の身体的特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】演習を行ってわかったことをまとめる(30分)                             |
| 4             | 4/19   | 水  | 2  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(コミュニケーション、白内障、緑内障含む)<br>【事前課題】コミュニケーションに影響を及ぼす高齢者の特徴を復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者との効果的なコミュニケーションについて考えたことをまとめる(30分) |
| 5             | 4/26   | 水  | 1  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】高齢者に特有な疾患と看護(感染症)<br>【事前課題】これまでに学んだ感染症について復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい感染症と予防・看護についてまとめる(30分)                                |
| 6             | 4/26   | 水  | 2  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】健康逸脱からの回復を促す看護(脳卒中)<br>【事前課題】脳・神経系の機能と構造について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい脳卒中の病態と看護についてまとめる(30分)             |
| 7             | 5/10   | 水  | 1  | 松永 智子                  | 講義室3                  | 【講義】高齢者に特有な疾患と看護(呼吸器疾患)<br>【事前課題】呼吸器の機能と構造について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい呼吸器疾患の病態と看護についてまとめる(30分)             |
| 8             | 5/10   | 水  | 2  | 高谷 愛                   | 講義室3                  | 【講義】治療を受ける高齢者の看護(手術療法・大腿骨頭骨折)<br>【事前課題】高齢者に起こりやすい骨折についてまとめておく(30分)<br>【事後課題】課題学習を行い用紙をまとめる(30分)                                    |
| 9             | 5/17   | 水  | 1  | 松本幸枝                   | 講義室3                  | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(食事と栄養)<br>【事前課題】一般的な嚥下機能について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】提示された事例について調べる(30分)                           |
| 10            | 5/17   | 水  | 2  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】健康逸脱からの回復を促す看護(脱水、発熱)<br>【事前課題】一般的な水分分泌について復習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者が脱水になりやすい理由と援助方法についてまとめる(30分)                               |
| 11            | 5/24   | 水  | 1  | 松本幸枝                   | 講義室3                  | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(排泄)<br>【事前課題】自己の排泄記録をつけておく(30分)<br>【事後課題】提示された事例について調べる(30分)  |
| 12            | 5/24   | 水  | 2  | 松永 智子                  | 講義室3                  | 【講義】治療を受ける高齢者の看護(薬物療法)<br>【事前課題】臨床薬理学で学んだ薬物の体内動態(吸収・代謝・分布・排泄)について復習する(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい有害現象の理由と代表的な例についてまとめる(30分)           |
| 13            | 5/31   | 水  | 1  | 松本幸枝                   | 講義室3                  | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(生活リズム)<br>【事前課題】睡眠と活動についてまとめておく(30分)<br>【事後課題】高齢者の睡眠の特徴と生活リズムについてまとめる(30分)                                      |
| 14            | 5/31   | 水  | 2  | 湯沢はるみ                  | 講義室3                  | 【講義】エンドオブライフケア(高齢者施設におけるエンドオブライフケア)<br>【事前課題】高齢者の疾患と特徴についてまとめておく(30分)<br>【事後課題】エンドオブライフケアに携わる看護師の講義を聞き考えたことをまとめる(30分)              |
| 15            | 6/7  | 水  | 1  | 松本幸枝                   | 講義室3                  | 【講義】高齢者の生活機能を整える看護(清潔・皮膚掻痒・褥瘡含む)<br>【事前課題】皮膚の構造と機能について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に多い皮膚疾患と看護についてまとめる(30分)             |
| 16            | 6/7  | 水  | 2  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】高齢者のアセスメント、高齢者の機能と評価<br>【事前課題】高齢者のアセスメントツールについて調べる(30分)<br>【事後課題】アセスメントツールを用いて事例のアセスメントを行う(30分)                                |
| 17            | 6/14   | 水  | 1  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】健康逸脱からの回復を促す看護(虚血性心疾患)<br>【事前課題】循環器系の機能と構造について人体構造と機能学のテキストを参照し学習しておく(30分)<br>【事後課題】高齢者に起こりやすい心疾患についてまとめる(30分)                 |
| 18            | 6/14   | 水  | 2  | 坂本律子                   | 講義室3                  | 【講義】心臓リハビリテーションの実際<br>【事前課題】心臓リハビリテーションについてまとめておく(30分)<br>【事後課題】講義を聞き心臓リハビリテーションについて学んだことをまとめる(30分)                                |
| 19            | 6/21   | 水  | 1  | 山下 知子                  | 講義室3                  | 【講義】健康逸脱からの回復を促す看護(認知症)<br>【事前課題】加齢による物忘れと認知症の違いについてまとめておく(30分)<br>【事後課題】4つの認知症の病態と看護についてまとめる(30分)                                 |
| 20            | 6/21   | 水  | 2  | 吉村 汐里                  | 講義室3                  | 【講義】認知症ケアの実際<br>【事前課題】認知症の基礎知識について確認しておく(30分)<br>【事後課題】講義を聞き認知症看護について考えたことをまとめる(30分)   |

|                  |         |     |       |                        |                |  |
|------------------|---------|-----|-------|------------------------|----------------|--|
| 21               | 6/28    | 水   | 1     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【講義・グループワーク】看護過程の展開①:情報収集・情報の分類<br>(Ⅰ. アセスメント 1. 情報収集 記録用紙No.1~4)<br>【事前課題】事例をしっかりと読み、発達段階、疾患、看護についてテキストの内容や授業資料を読み確認しておく(30分)<br>【事後課題】時間内にできなかった情報の整理を行う(30分)              |
| 22               | 6/28    | 水   | 2     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【講義・グループワーク】看護過程の展開②:分析・解釈<br>(Ⅰ. アセスメント2. 情報の分析解釈 記録用紙No.5~7)<br>【事前課題】各自・各グループで情報の分類・アセスメントを行う(30分)<br>【事後課題】授業時間内にできなかったアセスメントを行う(30分)                                    |
| 23               | 7/5     | 水   | 1     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【講義・グループワーク】看護過程の展開③:分析・解釈<br>(Ⅰ. アセスメント 2. 情報の分析解釈 記録用紙No.8~11)<br>【事前課題】各自・各グループで情報の分類・アセスメントを行う(30分)<br>【事後課題】授業時間内にできなかったアセスメントを行う(30分)                                  |
| 24               | 7/5     | 水   | 2     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【講義・グループワーク】看護過程の展開④:分析・解釈<br>(Ⅰ. アセスメント 2. 情報の分析解釈 記録用紙No.12~15)<br>【事前課題】各自・各グループで情報の分類・アセスメントを行う(30分)<br>【事後課題】授業時間内にできなかったアセスメントを行う(30分)                                 |
| 25               | 7/5     | 水   | 3     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【講義・グループワーク】看護過程の展開⑤:看護問題<br>(Ⅱ. 看護問題 1. 全体像 2. 看護問題と優先順位 記録用紙No.16~17)<br>【事前課題】看護問題としてどのようなものが考えられるかグループで話し合いまとめておく(30分)<br>【事後課題】授業時間内にできなかった関連図と看護問題の順位とその理由について考える(30分) |
| 26               | 7/5     | 水   | 4     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【グループワーク・プレゼンテーション】看護過程の展開⑥:全体像のまとめ・発表<br>【事前課題】全体像の発表に向けてグループで意見交換を行い関連図と看護問題リストを作成する(30分)<br>【事後課題】発表の内容を振り返り、関連図と看護問題の優先順位を追加・修正する(30分)                                   |
| 27               | 7/12    | 水   | 1     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【講義・グループワーク】看護過程の展開⑦:看護計立案<br>【事前課題】看護計立案に向けてグループで意見交換を行い看護計画を立案する(30分)<br>【事後課題】看護計画の発表に向けてグループで意見交換を行い看護計画の修正を行う(30分)  |
| 28               | 7/12    | 水   | 2     | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 講義室3           | 【グループワーク・プレゼンテーション】看護過程の展開⑧:看護計画の発表<br>【事前課題】グループで看護計画を立案し発表に向けた準備を行う(30分)<br>【事後課題】発表の内容を振り返り、看護計画の追加・修正を行う(30分)  |
| 29               | 7/12、14 | 水、金 | ----- | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 成人・老年看護<br>演習室 | 【看護技術演習】高齢者の生活を支える看護の演習<br>(義歯のケアと装着、褥瘡予防、背抜き、足抜き、半身麻痺の方の移乗)<br>【事前課題】実施する技術についてプリントにまとめる(30分)<br>【事後課題】実施後の課題をまとめて提出する(30分)   |
| 30               | 7/12、14 | 水、金 | ----- | 松永 智子<br>山下 知子<br>松本幸枝 | 成人・老年看護<br>演習室 | 【看護技術演習】高齢者の生活を支える看護の演習<br>(義歯のケアと装着、褥瘡予防、背抜き、足抜き、半身麻痺の方の移乗)<br>【事前課題】実施する技術についてプリントにまとめる(30分)<br>【事後課題】実施後の課題をまとめて提出する(30分)   |
| 成績評価方法・基準        |         |     |       |                        |                | 筆記試験60% レポート40%  |
| 課題に対するフィードバックの方法 |         |     |       |                        |                | 提出された課題は、各学生の理解の状況に応じてコメントするとともに、授業で解説などを行いフィードバックします。   |
| 授業外における学習(予習・復習) |         |     |       |                        |                | 老年看護学概論の復習を行い臨んでください。他関連科目の学習を身につけておく。毎回の授業ごとのレポートや課題に積極的に取り組み、看護過程の事例展開は個人ワークを必ず行ってください。  |
| 教科書<br>・参考文献等    |         | 教科書 |       |                        |                | 鳥羽研二他『老年看護 病態・疾患論 第5版(系統看護学講座 専門分野)』(医学書院、2018年) ISBN:9784260031721<br>北川公子他『老年看護学 第9版(系統看護学講座 専門分野)』(医学書院、2018年) ISBN:9784260031868   |
|                  |         | 参考書 |       |                        |                | 亀井智子他『根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版』(医学書院、2020年)ISBN:9784260043267<br>山田律子他『生活機能からみた老年看護過程 病態・生活機能関連図 第4版(医学書院、2020年) ISBN:9784260042741   |
|                  |         | その他 |       |                        |                | 随時紹介する   |
|                  |         |     |       |                        |                |  |
| 連絡先・オフィスアワー      |         |     |       |                        |                | 連絡先<br>松永智子 研究室11 t-matsunaga@hsu.ac.jp<br>オフィスアワー: 火曜日 16:45~17:45<br>山下知子 研究室19 t-yamashita@hsu.ac.jp<br>オフィスアワー: 金曜日 16:45~17:45  |
| その他              |         |     |       |                        |                | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての実務経験を活かした講義(演習)を行う。   |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目コード         | 12-11317  |
| 授業科目名         | 小児看護方法論   |
| 配当年次          | 3学年   |
| 開講時期          | 前期  |
| 必修・選択・自由      | 必修  |
| 単位            | 2単位   |
| 時間数           | 45時間  |
| 授業形態          | 演習  |
| 担当教員          | 上本野 唱子、飯泉 悦子  |
| 実務家教員         | 看護職:上本野 唱子、飯泉 悦子  |
| 授業科目の概要       | 健康障害をきたした児とその家族に対して行う身体機能別の具体的な看護について学び、看護過程を展開する。また、小児看護特有な援助技術についても演習を行い、小児看護学実習の実践能力を身につける基礎とする。 |
| 授業の到達目標       | 身体機能障害に関連する症状(病態)に対する看護を理解することができ、看護過程の展開ができる。小児看護における特殊援助技術の実践を行うことができる。                           |
| 関連するディプロマポリシー | 看護学科DP3に該当。   |
| 特に関連する科目      | 基礎看護学 小児看護学概論 生涯発達看護論 病態治療学Ⅲ  |
| 授業の具体的な進め方    | 8項目の身体機能障害の看護を中心に学び、看護過程を展開後、技術の演習を行う。  |

授業計画

| 回数 | 月日   | 曜日 | 時限 | 教員    | 教室   | 内容   |
|----|------|----|----|-------|------|--|
| 1  | 5/9  | 火  | 1  | 上本野唱子 | 講義室3 | ・授業概要説明・オリエンテーション<br>【事前課題】小児保健で学習した内容をファイルにまとめておく(30分)<br>【事後課題】各種機能障害について理解しておく(30分)   |
| 2  | 5/9  | 火  | 2  | 上本野唱子 | 講義室3 | 呼吸器に障害を持つ子どもの看護<br>(肺炎に罹患した児を基に学ぶ)<br>【事前課題】①呼吸器のイラストと各部位の名称を"口、鼻から肺胞に至るまで書いて来る事。<br>②"検索エンジン(yahoo、Google)に"子ども 肺炎看護"の検索語をいれヒットしたものの中から最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(15分)。<br>【事後課題】学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(15分)。<br>呼吸機能を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(30分)。   |
| 3  | 5/16 | 火  | 1  | 上本野唱子 | 講義室3 | 循環器に障害を持つ子どもの看護<br>(先天性心疾患を持つ児を基に学ぶ)<br>【事前課題】①心臓の断面図を書き心房・心室、右・左心房を隔っている壁、右・左心室を隔っている壁及び左右心房、寝室に出入りする血管の名称と流れている血液の種類を書いて来る事(20分)。<br>②"検索エンジン(yahoo、Google)に"子ども 心疾患 看護"の検索語をいれヒットしたものの中から最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(10分)。<br>【事後課題】学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(10分)。<br>循環機能障害を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(20分)。 |
| 4  | 5/16 | 火  | 2  | 上本野唱子 | 講義室3 | 消化・吸収機能に障害を持つ子どもの看護<br>①消化器のイラストと各部位の名称を"口から肛門に至るまで書いて来る事(15分)。<br>②"検索エンジン(yahoo、Google)に"子ども 下痢 看護"の検索語をいれヒットしたものの中から最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(10分)。<br>【事後課題】学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(10分)。<br>消化・吸収機能障害を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(25分)。   |
| 5  | 5/23 | 火  | 1  | 上本野唱子 | 講義室4 | 代謝機能に障害を持つ子どもの看護<br>(1型糖尿病を持つ児を基に学ぶ)<br>【事前課題】インスリンとグルカゴンについて(分泌器官・作用など)復習しておく事(15分)。<br>②"検索エンジン(yahoo、Google)に"子ども 糖尿病 看護"の検索語をいれヒットしたものの中から最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(10分)。<br>【事後課題】学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(15分)。<br>代謝機能障害を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(20分)。   |
| 6  | 5/23 | 火  | 2  | 上本野唱子 | 講義室4 | 排泄機能に障害を持つ子どもの看護<br>(ネフローゼ症候群、急性腎炎に罹患した児を基に学ぶ)。<br>【事前課題】①腎臓の形態・機能及びネフローゼ症候群の病態を復習しておく事(15分)。<br>②"検索エンジン(yahoo、Google)に"子ども 糖尿病 看護"の検索語をいれヒットしたものの中から最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(10分)。<br>【事後課題】①学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(15分)。<br>②排泄機能障害を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(20分)。                                     |
| 7  | 5/30 | 火  | 1  | 上本野唱子 | 講義室3 | 免疫機能低下状態にある子どもの看護<br>("小児がん"に罹患した児を基に学ぶ)<br>【事前課題】①急性リンパ性白血病の病態を復習しておく事(15分)。<br>②"検索エンジン(yahoo、Google)に"子ども 急性リンパ性白血病 看護"の検索語をいれヒットしたものの中から最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(10分)。<br>【事後課題】①学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(10分)。<br>②免疫機能障害を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(25分)。   |



|                  |      |  |   |        |             |   |
|------------------|------|--|---|--------|-------------|---|
| 8                | 5/30 | 火  | 2 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 免疫機能障害を来した子どもの看護 ②<br>(気管支喘息に罹患した児を基に学ぶ)<br>【事前課題】①気管支喘息の病態を復習しておく事(15分)。<br>②「検索エンジン(yahoo, Google)に「子ども 気管支喘息 看護」の検索語をいれヒットしたものの中を最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(10分)。<br>【事後課題】①学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(15分)。<br>②免疫機能障害を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(20分)。  |
| 9                | 6/6  | 火  | 1 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 看護過程(講義)<br>【事前課題】基礎看護学で学習した看護過程の復習しておく事(20分)<br>【事後課題】授業中に配布した「NANDAの分類Ⅱに基づいた看護アセスメントの枠組みと情報収集の視点」の「アセスメントの視点」の内容を熟読しておく事(40分)   |
| 10               | 6/6  | 火  | 2 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 看護過程展開演習①<br>【事前課題】基礎看護学で学習した看護過程の復習しておく事(20分)<br>【事後課題】授業中に配布した「NANDAの分類Ⅱに基づいた看護アセスメントの枠組みと情報収集の視点」の「アセスメントの視点」の内容を熟読しておく事(40分)  |
| 11               | 6/13 | 火  | 1 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 運動機能障害を来した子どもの看護<br>(重症心身障がい者の事例を基に学ぶ)<br>【事前課題】①教科書②のpp.198-pp.200までを読んで来る事(10分)<br>②脳から出ている神経(12対)を復習をする事(10分)。<br>②「検索エンジン(yahoo, Google)に「子ども 重症心身障がい児 看護」の検索語をいれヒットしたものの中を最低3つ以上読み、看護として知っておかなければならない事のイメージをつかんでおく事(10分)。<br>【事後課題】①学習した内容を看護過程記録用紙のアセスメント用紙の「一般的な発達・正常値」欄に記入しておく事(10分)。<br>②運動機能障害を来した子どもの看護に関する20問テストの復習を行う事(20分)。 |
| 12               | 6/13 | 火  | 2 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 看護過程展開演習②   |
| 13               | 6/20 | 火  | 1 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 小児期に多い不慮の事故とその看護<br>【事前課題】教科書pp.14-15,471-477の範囲を読んで来る事(30分)。<br>【事後課題】教科書p.474の図6-15 胸骨圧迫時の回数と部位は覚える事(10分)。<br>小児期に多い不慮の事故に関する20問テストの復習を行う事(20分)。  |
| 14               | 6/20 | 火  | 2 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 看護過程演習③<br>【事前課題】各自アセスメントをして来る事(30分)。<br>【事後課題】次回の看護過程演習に向けて不明な点などを明らかにしておく事(30分)。  |
| 15               | 6/27 | 火  | 1 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 小児看護における援助技術①身体計測④発達評価<br>【事前課題】教科書pp.296-302及びp.514 F身長測定の動画を見て来る事(30分)。<br>【事後課題】第20回の演習に向けて復習しておく事(10分)。<br>援助技術に関する20問テストの復習を行う事(20分)。  |
| 16               | 6/27 | 火  | 2 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 看護過程展開演習④<br>【事前課題】問題点の抽出を行い、問題点が妥当であるかどうか考えて来る事(30分)。<br>【事後課題】次回の看護過程に向けて自己学習しておく事(30分)。  |
| 17               | 7/4  | 火  | 1 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 小児看護における援助技術②輸液管理④輸液量の計算<br>【事前課題】教科書pp.432-439を読んで来る事(30分)。<br>【事後課題】第21回の演習に向けて自己学習しておく事(30分)。<br>援助技術に関する20問テストの復習を行う事(20分)。   |
| 18               | 7/4  | 火  | 2 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 看護過程展開演習⑤<br>【事前課題】問題点の優先順位を考えて来る(30分)<br>【事後課題】記録用紙に展開した看護過程を振り返り、理解できていない事柄を明らかにする。   |
| 19               | 7/4  | 火  | 3 | 上本野 唱子 | 講義室3        | 小児看護における援助技術③バイタルサイン測定<br>看護技術演習オリエンテーション<br>【事前課題】教科書pp.287-296バイタルサインに関する箇所を読んでくる(30分)。<br>【事後課題】後期からの臨地実習に備え、測定部位を特定する方法や測定部位などをノートにまとめておく(10分)。<br>援助技術に関する20問テストの復習を行う事(20分)。  |
| 20               | 7/11 | 火  | 1 | 上本野 唱子 | 講義室3<br>演習室 | 演習:援助技術①身体計測<br>【事前課題】身体計測の演習が実施できるように整理したノートを確認しておく事(30分)。<br>【事後課題】実際に行った身体計測を通して学んだことの振り返りを行う事(30分)。   |
| 21               | 7/11 | 火  | 2 | 上本野 唱子 | 講義室3<br>演習室 | 演習:援助技術②輸液管理<br>【事前課題】輸液管理の演習が実施できるように整理したノートを確認しておく事(30分)。<br>【事後課題】実際に行った輸液管理を通して学んだことの振り返りを行う事(30分)。   |
| 22               | 7/11 | 火  | 3 | 上本野 唱子 | 講義室3<br>演習室 | 演習:援助技術③バイタルサイン測定<br>【事前課題】バイタルサイン測定の演習が実施できるように整理したノートを確認しておく事(30分)。<br>【事後課題】実際に行ったバイタルサイン測定を通して学んだことの振り返りを行う事(30分)。  |
| 23               | 7/11 | 火  | 4 | 上本野 唱子 | 講義室3<br>演習室 | 演習:援助技術④発達評価、輸液量の計算<br>【事前課題】発達評価、輸液量計算の演習が実施できるように整理したノートを確認しておく事(30分)。<br>【事後課題】実際に行った発達評価、輸液量の計算を通して学んだことの振り返りを行う事(30分)。   |
| 成績評価方法・基準        |      | 成績評価は授業終了後の「20問テスト」を中心に行う。   |   |        |             |   |
| 課題に対するフィードバックの方法 |      | 複数教員で事前・事後課題の確認を行い、必要な場合はコメントし返却します。再提出や試験および評価の対象とすることもあります。  |   |        |             |   |
| 授業外における学習(予習・復習) |      | ①これまでに学習した科目が基礎となる。しっかり復習しておくこと。<br>②毎回の授業内容をラフバスで確認してから受講すること。<br>③授業時間以外にテキストを活用して予習・復習を必ず行うこと。<br>④課題レポートを課す場合は講義中に提示する。<br>⑤【事前課題】【事後課題】は最低限の学習時間です。これ以上の時間自己学習することをお勧めします。また、課題内容は追加になることがあります。 |   |        |             |   |
| 教科書・参考文献等        | 教科書  | 奈良間美保 著『小児看護学②』第14版 小児臨床看護各論(系統看護学講座 専門分野)(医学書院、2020年) ISBN:9784260038669  |   |        |             |   |
|                  | 参考書  | 適宜講義の中で紹介する。   |   |        |             |   |
|                  | その他  | 特になし   |   |        |             |   |
| 連絡先・オフィスアワー      |      | 上本野 唱子 毎週火曜日 3限 研究室 :s=kamimotono@jhsu.ac.jp   |   |        |             |   |
| その他              |      | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。   |   |        |             |   |

|                  |   |   |    |      |           |  |
|------------------|---|---|----|------|-----------|--|
| 科目コード            | 12-11320  |   |    |      |           |  |
| 授業科目名            | 母性看護学方法論  |   |    |      |           |  |
| 配当年次             | 2学年   |   |    |      |           |  |
| 開講時期             | 後期  |   |    |      |           |  |
| 必修・選択・自由         | 必修  |   |    |      |           |  |
| 単位               | 2単位   |   |    |      |           |  |
| 時間数              | 30時間  |   |    |      |           |  |
| 授業形態             | 演習  |   |    |      |           |  |
| 担当教員             | 今井 充子   |   |    |      |           |  |
| 実務家教員            | 看護職:今井充子  |   |    |      |           |  |
| 授業科目の概要          | 周産期にある妊産婦及び新生児の正常な経過及びその看護、また、異常時に必要な看護を学習する。<br>妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児への看護については各時期の身体的、心理的、社会的経過が安全・安楽であるようにセルフケア能力を高めることや発達の危機等特徴的な看護について学習する。  |   |    |      |           |  |
| 授業の到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠の成立、妊婦の形態・機能的変化と心理・社会的変化や胎児の発育と生理、付属物の形成や発達およびその看護について理解できる。</li> <li>2. 産婦の形態・機能的、心理的变化およびその看護について理解できる。</li> <li>3. 産婦の進行性・退行性変化や正常新生児の生理・成長発達と母子相互作用や家族の再構築、およびその看護について理解できる。</li> <li>4. 異常のある妊産婦と新生児への看護を理解できる。</li> </ol> |   |    |      |           |  |
| 関連するディプロマポリシー    |   |   |    |      |           |  |
| 特に関連する科目         | 母性看護学概論 母性保健 病態治療学Ⅲ 小児看護学 母性看護学実習   |   |    |      |           |  |
| 授業の具体的な進め方       | 教科書を使用し講義を行う。授業資料を綴じられるよう、各自A4のファイルを用意すること。<br>この科目は、母性看護の実践において基礎となります。  |   |    |      |           |  |
| 授業計画             |   |   |    |      |           |  |
| 回数               | 月日  | 曜日  | 時限 | 教員   | 教室        | 内容                                     |
| 1                | 9/21  | 水   | 3  | 名取道也 | 南キャンパス101 | 子どもを産み育てることと看護<br>妊娠期における看護① 妊娠期の身体的特性 |
| 2                | 9/28  | 水   | 3  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 妊娠期における看護② 妊娠期の心理・社会的特性                |
| 3                | 10/5  | 水   | 4  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 妊娠期における看護③ 妊婦と胎児のアセスメント                |
| 4                | 10/14   | 金   | 1  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 妊娠期における看護④ 妊婦と家族の看護 / 異常のある妊婦の看護       |
| 5                | 10/21   | 金   | 2  | 名取道也 | 南キャンパス101 | 分娩期における看護① 分娩の要素と経過                    |
| 6                | 10/28   | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 分娩期における看護② 産婦・胎児、家族のアセスメントと看護          |
| 7                | 11/4  | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 分娩期における看護③ 分娩期の看護の実際 / 異常のある産婦の看護      |
| 8                | 11/25   | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 新生児期における看護① 新生児の生理                     |
| 9                | 12/2  | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 新生児期における看護② 新生児の健康状態のアセスメント            |
| 10               | 12/5  | 月   | 3  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 新生児期における看護③ 新生児の看護                     |
| 11               | 12/14   | 水   | 4  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 新生児期における看護④ 異常のある新生児の看護                |
| 12               | 12/16   | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 産褥期における看護① 産褥経過                        |
| 13               | 12/23   | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 産褥期における看護② 産婦のアセスメント                   |
| 14               | 1/13  | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 産褥期における看護③ 産婦と家族の看護                    |
| 15               | 1/20  | 金   | 2  | 今井充子 | 南キャンパス101 | 産褥期における看護④ 施設退院後の看護 / 異常のある産婦の看護       |
| 成績評価方法・基準        | 小テストおよび定期テストにて評価する。   |   |    |      |           |  |
| 課題に対するフィードバックの方法 |   |   |    |      |           |  |
| 授業外における学習(予習・復習) | 授業計画に沿って教科書・配布資料・参考図書で予習および復習をすること。予習・復習は合計で60分以上必要です。  |   |    |      |           |  |
| 教科書<br>・参考文献等    | 教科書   | 森 恵美ほか著『<<系統看護学講座 専門分野Ⅱ>> 母性看護学[2] 母性看護学各論(第14版)』(医学書院、2021) ISBN: 9784260042239  |    |      |           |  |
|                  | 参考書   | 井上裕美他『病気が見える Vol.10 産科(第4版)』(メディックメディア 2018) ISBN: 9784896327137  |    |      |           |  |
|                  |   | 有森直子編『NURSING TEXTBOOK SERIES 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得』(医歯薬出版株式会社 2020) ISBN: 9784263237373                                |    |      |           |  |
|                  |   | 前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ』(中央法規、2011) ISBN: 9784805834060<br>前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ』(中央法規、2011) ISBN: 9784805834077<br>・必要に応じてプリントを配布する。 |    |      |           |  |
| その他              |   |   |    |      |           |  |
| 連絡先・オフィスアワー      | 今井充子: 研究室6(2F)<br>相談時には、事前にメール(m-imai@jhsu.ac.jp)に連絡をください。<br>* m-imai-demo@jhsu.ac.jpは使用していないアドレスです。ご注意ください。   |   |    |      |           |  |
| その他              | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義を行う。  |   |    |      |           |  |

|                  |  |    |    |                    |              |   |
|------------------|--|----|----|--------------------|--------------|---|
| 科目コード            | 12-11322   |    |    |                    |              |   |
| 授業科目名            | 精神看護方法論  |    |    |                    |              |   |
| 配当年次             | 3学年  |    |    |                    |              |   |
| 開講時期             | 前期   |    |    |                    |              |   |
| 必修・選択・自由         | 必修   |    |    |                    |              |   |
| 単位               | 2単位  |    |    |                    |              |   |
| 時間数              | 60時間   |    |    |                    |              |   |
| 授業形態             | 演習   |    |    |                    |              |   |
| 担当教員             | 菊地 淳、田中 勇気、内田 剛  |    |    |                    |              |   |
| 実務家教員            | 看護職: 菊地淳、田中勇気  |    |    |                    |              |   |
| 授業科目の概要          | 精神障害のある人への看護の基本が理解できる。<br>1. 主な精神疾患と治療が理解できる。<br>2. 主な精神症状と看護の基本が理解できる。<br>3. 治療的コミュニケーション技術を使い、プロセスレコードの意義が理解できる。<br>4. セルフケアへの援助が理解できる。<br>5. 身体合併症を有する患者への看護が理解できる。<br>6. 精神科リハビリテーションと地域生活支援が理解できる。  |    |    |                    |              |   |
| 授業の到達目標          | 1.精神症状のアセスメント方法の基本を学ぶ。<br>2.精神障害を持つ人(生活障害)を理解する。<br>3.主な精神疾患・精神症状における病態、診断、回復過程、治療の特徴を理解し精神障害を持つ人への働きかけの援助法を理解する。<br>4.地域生活を送る精神障害者の理解と精神科リハビリテーションやサポートシステムについての現状や課題について学ぶ。<br>5.セルフケア看護理論を中心とした看護過程(アセスメント・計画立案・評価・修正)を展開するための知識を習得し、方法を理解する。 |    |    |                    |              |   |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP3に該当。  |    |    |                    |              |   |
| 特に関連する科目         | コミュニケーション論 心理学 精神保健 精神看護学概論 病態治療学Ⅲ 薬理学 サイコセラピーとカウンセリング   |    |    |                    |              |   |
| 授業の具体的な進め方       | 配布資料と教科書を中心に講義形式の授業・演習を行う。<br>・精神疾患に特徴的な症状や看護援助に必要な技術については、視聴覚教材などを多く用い理解に繋げる。   |    |    |                    |              |   |
| 授業計画             |  |    |    |                    |              |   |
| 回数               | 月日   | 曜日 | 時限 | 教員                 | 教室           | 内容  |
| 1                | 4/10   | 月  | 3  | 菊地 淳               | 講義室3         | オリエンテーション 精神障害と治療と環境                          |
| 2                | 4/10   | 月  | 4  | 田中 勇気              | 講義室3         | 地域で生活する精神障害者支援                                |
| 3                | 4/17   | 月  | 3  | 菊地 淳               | 講義室3         | 精神疾患と病態・治療・検査・看護 ー統合失調症ー(1)                   |
| 4                | 4/17   | 月  | 4  | 菊地 淳               | 講義室3         | 精神疾患と病態・治療・検査・看護 ー統合失調症ー(2)                   |
| 5                | 4/24   | 月  | 3  | 菊地 淳               | 講義室3         | 精神疾患と病態・治療・検査・看護 ー統合失調症ー(3)                   |
| 6                | 4/24   | 月  | 4  | 菊地 淳               | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ー統合失調症ー(4)                   |
| 7                | 5/1  | 月  | 3  | 菊地 淳               | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ー統合失調症ー(5)                   |
| 8                | 5/1  | 月  | 4  | 中村光範               | 講義室3         | 医療法人慈光会 東武丸山病院 看護部長<br>「精神科病院における感染対策の実践について」 |
| 9                | 5/8  | 月  | 3  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室3         | 看護者と患者の相互関係(1) ープロセスレコードー                     |
| 10               | 5/8  | 月  | 4  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室3         | 看護者と患者の相互関係(2) ープロセスレコードー                     |
| 11               | 5/15   | 月  | 3  | 菊地淳                | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ーアルコール依存症ー(1)                |
| 12               | 5/15   | 月  | 4  | 菊地淳                | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ーアルコール依存症ー(2)                |
| 13               | 5/22   | 月  | 3  | 菊地 淳               | 講義室3         | 第1回～12回までの振り返り                                |
| 14               | 5/22   | 月  | 4  | 菊地 淳               | 講義室3         | 精神疾患と病態・治療・検査・看護 ー(ストレス障害、強迫障害、パニック・PTSD)ー    |
| 15               | 5/29   | 月  | 3  | 田中勇気               | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ー気分障害ー(1)                    |
| 16               | 5/29   | 月  | 4  | 田中勇気               | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ー気分障害ー(2)                    |
| 17               | 6/5  | 月  | 3  | 田中勇気               | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ー気分障害ー(3)                    |
| 18               | 6/5  | 月  | 4  | 田中勇気               | 講義室3         | 精神疾患と病態・検査・治療・看護 ー気分障害ー(4)                    |
| 19               | 6/12   | 月  | 3  | 田中勇気<br>菊地淳<br>内田剛 | 講義室3         | 精神看護における援助技術ーコミュニケーションー(1)                    |
| 20               | 6/12   | 月  | 4  | 田中勇気<br>菊地淳<br>内田剛 | 講義室3         | 精神看護における援助技術ーコミュニケーションー(2)                    |
| 21               | 6/17   | 土  | 3  | 田中勇気               | 講義室3         | 精神疾患と病態・治療・検査・看護 ー児童精神障害ー                     |
| 22               | 6/17   | 土  | 4  | 菊地淳                | 講義室3         | 精神疾患と病態・治療・検査・看護 ーパーソナリティ障害ー                  |
| 23               | 6/19   | 月  | 3  | 田中勇気               | 講義室3         | 精神疾患と病態・治療・検査・看護 ー摂食障害ー                       |
| 24               | 6/19   | 月  | 4  | 菊地淳                | 講義室3         | 精神看護における援助技術ー看護過程の展開ー(1)                      |
| 25               | 6/26   | 月  | 3  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室2<br>講義室3 | 精神看護における援助技術ー看護過程の展開ー(2)                      |
| 26               | 6/26   | 月  | 4  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室2<br>講義室3 | 精神看護における援助技術ー看護過程の展開ー(3)                      |
| 27               | 7/3  | 月  | 3  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室2<br>講義室3 | 精神看護における援助技術ー看護過程の展開ー(4)                      |
| 28               | 7/3  | 月  | 4  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室2<br>講義室3 | 演習: 精神看護における援助技術ー看護過程の展開ー(5)                  |
| 29               | 7/10   | 月  | 3  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室2<br>講義室3 | 演習: 精神看護における援助技術ー看護過程の展開ー(6)                  |
| 30               | 7/10   | 月  | 4  | 菊地淳<br>田中勇気<br>内田剛 | 講義室2<br>講義室3 | 演習: 精神看護における援助技術ー看護過程の展開ー(7)                  |
| 成績評価方法・基準        | 試験(80%) 課題や出席等(20%)  |    |    |                    |              |   |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業ごとに国試に係るKeywordを提示するので、復習を欠かさないようにする。  |    |    |                    |              |   |
| 授業外における学習(予習・復習) | 専門的な用語や内容が多いため、予習・復習をすること。また、授業中ショートテストを実施するので復習は必須である。自己にて解決できない疑問があれば、積極的に教員に尋ねること。また、この科目の講義内容は看護師国家試験に頻出のため、毎回復習すること。  |    |    |                    |              |   |

|               |     |   |
|---------------|-----|---|
| 教科書<br>・参考文献等 | 教科書 | 武井 麻子 著『精神看護学<2> 第6版 精神看護の展開(系統看護学講座 専門分野)』   |
|               | 参考書 | 適宜紹介する  |
|               | その他 | 特になし  |
| 連絡先・オフィスアワー   |     | 菊地 淳 連絡先: 研究室 9 (2階) メールアドレス: j-kikuchi@jhsu.ac.jp<br>オフィスアワー: 月曜日 16:40~17:40<br>田中 勇氣 連絡先: 研究室 5 (2階) メールアドレス: y-tanaka@jhsu.ac.jp<br>オフィスアワー: 月曜日 16:40~17:40<br>内田 剛 連絡先: 研究室 (2階) メールアドレス: t-uchida@jhsu.ac.jp<br>オフィスアワー: 月曜日 16:40~17:40 |
| その他           |     | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。  |

|                  |   |   |    |                        |      |   |
|------------------|---|---|----|------------------------|------|---|
| 科目コード            | 112-11324   |   |    |                        |      |   |
| 授業科目名            | 公衆衛生看護システム論   |   |    |                        |      |   |
| 配当年次             | 4学年   |   |    |                        |      |   |
| 開講時期             | 前期  |   |    |                        |      |   |
| 必修・選択・自由         | 選択  |   |    |                        |      |   |
| 単位               | 2単位   |   |    |                        |      |   |
| 時間数              | 30時間  |   |    |                        |      |   |
| 授業形態             | 講義  |   |    |                        |      |   |
| 担当教員             | 加藤 さゆり、坂巻 つや子、松崎 一基   |   |    |                        |      |   |
| 実務家教員            | 看護職：加藤さゆり 坂巻つや子 松崎一基  |   |    |                        |      |   |
| 授業科目の概要          | 公衆衛生看護活動のコアとなる公衆衛生看護管理について、組織的問題解決過程の基礎的展開を通して、公衆衛生看護診断モデルを用いた地区の情報収集、分析、アセスメントによる保健計画の立案、実施、評価、修正の過程を理解する。具体的な保健活動計画づくり実践例を紹介し、計画および評価についてEBNIによる根拠や科学性を持たせることの重要性を理解する。公衆衛生看護管理の財政・予算・組織等、行政看護から学校保健・産業保健におよぶ集団の看護システムの原則について理解する。      |   |    |                        |      |   |
| 授業の到達目標          | 1.地域診断の概念を述べることができる。<br>2.地域診断に関連するコミュニティ・アズ・パートナーモデルの特徴と、地域診断のプロセスを具体的に説明することができる。<br>3.実習する保健所、市町村の地域診断を指導を受けながら実施することができる。<br>4.公衆衛生看護管理の管理機能について説明できる。<br>5.公衆衛生分野における地域包括ケアシステムについて理解できる。<br>目標4、5については実習終了後の看護統合演習(公衆衛生看護学)で学びを深める。 |   |    |                        |      |   |
| 関連するディプロマポリシー    | 看護学科DP5に該当。   |   |    |                        |      |   |
| 特に関連する科目         | 公衆衛生学 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論 公衆衛生看護技術論 疫学 保健統計学  |   |    |                        |      |   |
| 授業の具体的な進め方       | 公衆衛生看護管理における基本的展開を、具体例を交えて学び、地域を対象とする公衆衛生看護の実践について理解する。コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域診断について、演習を通して理解し、実習における保健所・市町村について実践できる能力を培う。  |   |    |                        |      |   |
| 授業計画             |   |   |    |                        |      |   |
| 回数               | 月日  | 曜日  | 時限 | 教員                     | 教室   | 内容  |
| 1                | 4/8   | 月   | 3  | 加藤さゆり<br>坂巻つや子<br>松崎一基 | 講義室4 | 授業ガイダンス<br>公衆衛生看護管理①<br>公衆衛生看護管理の目的と特徴<br>(構造と機能、事例管理、業務管理、予算管理、情報管理、人事管理、組織運営管理) |
| 2                | 4/8   | 月   | 4  | 加藤さゆり<br>坂巻つや子<br>松崎一基 | 講義室4 | 地域診断①<br>地域診断の目的、プロセス、方法、コミュニティ・アズ・パートナーモデル、                                      |
| 3                | 4/12  | 金   | 3  | 加藤さゆり<br>坂巻つや子<br>松崎一基 | 講義室4 | 地域診断②<br>保健師の地区活動：地域保健活動、地区活動、地域包括ケアシステムの構築<br>保健医療福祉における施策化および事業化、評価方法           |
| 4                | 4/12  | 金   | 4  | 加藤さゆり<br>坂巻つや子<br>松崎一基 | 講義室4 | 地域診断演習ガイダンス   |
| 5                | 4/15  | 月   | 3  | 加藤さゆり<br>坂巻つや子<br>松崎一基 | 講義室4 | 地域診断演習(既存資料からの情報収集)① 保健所管内について  |
| 6                | 4/15  | 月   | 4  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 地域診断演習(既存資料からの情報収集)②保健所管内について   |
| 7                | 4/19  | 金   | 3  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 地域診断演習(既存資料からの情報収集)③  |
| 8                | 4/19  | 金   | 4  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 地域診断演習(既存資料からの情報収集)④  |
| 9                | 4/22  | 月   | 3  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 担当地域の健康課題の抽出①   |
| 10               | 4/22  | 月   | 4  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 担当地域の健康課題の抽出②   |
| 11               | 4/29  | 月   | 3  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 担当地域の健康課題の抽出③   |
| 12               | 4/29  | 月   | 4  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 担当地域の健康課題の抽出④   |
| 13               | 4/30  | 火   | 3  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 発表資料作成および発表準備   |
| 14               | 5/7   | 火   | 3  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 地域診断発表①   |
| 15               | 5/7   | 火   | 4  | 坂巻つや子<br>松崎一基<br>加藤さゆり | 講義室4 | 地域診断発表②   |
| 成績評価方法・基準        | 講義出席、課題作成の個人ワーク、地域診断ワークシート、小テスト、定期試験を総合的に評価する。  |   |    |                        |      |   |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 事前・事後課題の確認、指導を行う。場合によっては、再提出が必要な場合がある。  |   |    |                        |      |   |
| 授業外における学習(予習・復習) | 授業計画に沿ってテキストで予習し、講義後は、テキスト、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね30分以上必要である。演習については、授業時間内で終了できなかった作業の補充に充てる。   |   |    |                        |      |   |
| 教科書<br>・参考文献等    | 教科書   | 荒賀直子・後閑容子編『公衆衛生看護学』第5版データ更新版(インターメディカル、2022)ISBN9784900828858 |    |                        |      |   |
|                  |   | 医療情報科学研究所編『公衆衛生がみえる2024-2025』(メディックメディア、2024)                 |    |                        |      |   |
|                  | 参考書   | 厚生労働統計協会編『国民衛生の動向 2023/2024』(厚生労働統計協会)                        |    |                        |      |   |
|                  |   | 金川克子・田高悦子編『地域看護診断 第2版』(東京大学出版会)                               |    |                        |      |   |
| その他              | 金川克子翻訳『コミュニティ・アズ・パートナー - 地域看護学の理論と実際』(医学書院)   |   |    |                        |      |   |



|             |  |
|-------------|--|
| 連絡先・オフィスアワー | 連絡先： 加藤さゆり s-katou@jhsu.ac.jp<br>質問・相談は、講義や演習の中で受け付けます。<br>それ以外の時は、臨地実習等で研究室不在の場合がありますのでメールで予約をしてください。 |
| その他         | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。   |

|               |   |    |       |                           |                  |  |
|---------------|---|----|-------|---------------------------|------------------|--|
| 科目コード         | 12-11325  |    |       |                           |                  |  |
| 授業科目名         | 在宅看護論   |    |       |                           |                  |  |
| 配当年次          | 3学年   |    |       |                           |                  |  |
| 開講時期          | 前期  |    |       |                           |                  |  |
| 必修・選択・自由      | 必修  |    |       |                           |                  |  |
| 単位            | 2単位   |    |       |                           |                  |  |
| 時間数           | 60時間  |    |       |                           |                  |  |
| 授業形態          | 講義  |    |       |                           |                  |  |
| 担当教員          | 増野 章子、小林 美奈子、浅見 正人、川口 ちづる、栗山 恵子、島津 ちほ   |    |       |                           |                  |  |
| 実務家教員         | 看護職:増野章子 小林美奈子  |    |       |                           |                  |  |
| 授業科目の概要       | 地域における保健・医療・福祉サービスの一分野としての在宅ケア、在宅看護の概念を学習する。在宅看護・訪問看護の特徴、提供方法等について学び、地域や対象の生活を視野に入れた真の継続看護の実践の基礎となる知識や考え方を理解する。多職種と連携・協働しながらの看護の役割と実際について学習する。また地域における看護活動の変遷と在宅看護の現状を学び、今後の課題について考察する。さらに在宅看護の対象である療養者とその家族が、疾患や障害を持ちながら生活しているよう支援するための基礎的知識を理解する。   |    |       |                           |                  |  |
| 授業の到達目標       | 地域・在宅看護において、以下1～8を到達目標とする。<br>1. 歴史の変遷と社会的背景に基づき、概念や特徴、訪問看護の仕組みを説明できる。<br>2. 対象を支援する法制度および対象に応じた社会資源を説明できる。<br>3. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携のあり方と看護の役割を考察することができる。<br>4. 疾病や障がいがある療養者と家族の生活に及ぼす影響と必要な看護について説明できる。<br>5. 医療管理と自己管理を高める看護について説明できる。<br>6. 療養の場の移行に必要な看護を理解し、継続看護について考えを述べられる。<br>7. 発生しうるリスクと危機管理について説明できる。<br>8. 紙上事例を通して、看護過程の展開の特徴を説明できる。 |    |       |                           |                  |  |
| 関連するディプロマポリシー | 看護学科DP3に該当。   |    |       |                           |                  |  |
| 特に関連する科目      | 在宅看護論実習 看護学専門科目(基礎・成人・老年・小児・精神・公衆衛生看護学の概論や方法論) 家族看護論 社会福祉学 関係法規 保健医療福祉行政論   |    |       |                           |                  |  |
| 授業の具体的な進め方    | 講義および個人ワークで授業を進める。本学教員からの講義のみではなく、訪問看護師や在宅酸素にかかわる担当者からの講義を計画している。授業ごとにリアクションシートの提出や課題を提示する。   |    |       |                           |                  |  |
| 授業計画          |   |    |       |                           |                  |  |
| 回数            | 月日  | 曜日 | 時限    | 教員                        | 教室               | 内容   |
| 1             | 4/7   | 金  | 3     | 増野章子                      | 講義室3             | 授業ガイダンス:到達目標と授業の進め方<br>在宅看護の位置づけと概念[到達目標 1](テキスト①p16～21、p33～35)<br>[事前学習] テキスト①p33～35を読んで、地域・在宅看護のイメージをまとめる。<br>[事後学習] レポート400字「私の暮らしと健康」                  |
| 2             | 4/7   | 金  | 4     | 増野章子                      | 講義室3             | 地域・在宅看護の社会的背景と歴史の変遷 [到達目標 1](テキスト①p21～33)<br>[事前学習] 日本の人口動態(主な死因)、平均寿命を調べる。<br>[事後学習] 健康の定義に関する国家試験の過去問から在宅看護の社会背景を復習する。                                   |
| 3             | 4/14  | 金  | 3     | 増野章子                      | 講義室3             | 地域・在宅看護の特徴 [到達目標 1](テキスト①p36～51)<br>[事前学習] テキスト①p42～47を読んでおく。<br>[事後学習] レポート400字 提示された事例について学習した理論を用いて述べる。   |
| 4             | 4/14  | 金  | 4     | 増野章子                      | 講義室3             | 地域・在宅看護の対象者と家族支援 [到達目標 1, 4](テキスト①p56～84)<br>[事前学習] テキスト②p67～73を読んで、家族看護の復習をする。P81～84を読んで、わからない単語を調べる。<br>[事後学習] 介護負担の4つの側面を復習する。                          |
| 5             | 4/21  | 金  | 3     | 増野章子                      | 講義室3             | 地域療養を支える法制度 [到達目標 2](テキスト①p142～176)<br>[事前学習] テキスト②p224～228を読んで、わからない単語をまとめる。<br>[事後学習] 授業で出た制度について問題を解いて復習する。   |
| 6             | 4/21  | 金  | 4     | 増野章子                      | 講義室3             | 訪問看護の仕組みと役割 [到達目標 1](テキスト①p198～230)<br>[事前学習] テキスト①p205～207を読んで、訪問看護ステーションをイメージする。<br>[事後学習] レポート400字「動画視聴で捉えた訪問看護の特徴」                                     |
| 7             | 4/28  | 金  | 3     | 増野章子                      | 講義室3             | 療養の場の移行と多職種連携 [到達目標 3, 6](テキスト①p103～113)<br>[事前学習] DVD「退院から在宅療養生活に向けた医療・介護連携」を視聴して、在宅移行支援についてイメージする。<br>[事後学習] 自分の居住地(市区町村)にある病院の地域医療連携部門にはどのような活動があるか調べる。 |
| 8             | 4/28  | 金  | 4     | 増野章子                      | 講義室3             | 地域包括ケアシステムにおける多職種連携 [到達目標 3](テキスト①p114～138)<br>[事前学習] テキスト①p99動画を視聴し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割についてピックアップする。<br>[事後学習] 自分の居住地(市区町村)における地域包括支援センターの活動の調べ。         |
| 9             | 5/12  | 金  | 3     | 増野章子                      | 講義室3             | 療養の場における安全管理 [到達目標 7](テキスト①p234～249、テキスト②194～198)<br>[事前学習] 動画視聴「在宅における災害対応 事前対策・社会資源の活用」<br>[事後学習] レポート400字「在宅療養者への防災対策について」資料: 勇美財団の報告書、動画視聴             |
| 10            | 5/12  | 金  | 4     | 島津ちほ                      | 講義室3             | 訪問看護の実践 [到達目標 1, 4, 5]<br>[事前学習] テキスト②p21～22を読んでおく。<br>[事後学習] レポート200字「訪問看護の実践を聴講して」   |
| 11            | 5/19  | 金  | 3     | 増野章子                      | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護①脳血管疾患のために障がいがある療養者と家族 [到達目標 2, 4](テキスト②p46～53、p70～92)<br>[事前学習] 脳梗塞後遺症の復習、生活リハビリテーションの動画の視聴  |
| 12            | 5/19  | 金  | 4     | 浅見正人                      | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護②療養生活を支えるリハビリテーション [到達目標 3, 4]<br>[事後学習] レポート400字「在宅でのリハビリに対する学び」   |
| 13            | 6/1   | 木  | 1     | ゲストスピーカー<br>小林美奈子<br>増野章子 | 講義室2<br>講義室3     | 医療処置および医療機器が必要な療養者への看護①HOT NPPV [到達目標 5](テキスト②p181～187、p271～281)<br>[事前学習] 呼吸の仕組み、外呼吸器、内呼吸器の復習<br>[事後学習] レポート「本時の学び」                                       |
| 14            | 6/1   | 木  | 2     | 増野章子                      | 講義室2<br>講義室3     | 医療処置および医療機器が必要な療養者への看護②人工呼吸器 [到達目標 5, 6, 7](テキスト②p106～108)<br>[事前学習] ワークシート テキスト①p246～248の事例を読んで来る 気管切開の解剖図<br>[事後学習] ワークシート(呼吸器回路、アラーム対応、停電時の対応)          |
| 15            | 6/2   | 金  | 3     | 小林美奈子                     | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護③精神障がい者と家族 [到達目標 2, 3, 4](テキスト①p162～176、テキスト②p228～231)<br>[事前学習] テキスト②p228～231を読んで来る<br>[事後学習] レポート400字「リハビリした事例を視聴して」                          |
| 16            | 6/2   | 金  | 4     | 小林美奈子                     | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護④先天性疾患を抱える子どもと家族 [到達目標 2, 3, 4](テキスト①p180～182 テキスト②p34、p232～235)<br>[事前学習] 児童発達支援事業、放課後デイサービスを調べる<br>[事後学習] 小児の在宅療養に関する園試同様の問題を用いた本時の復習         |
| 17            | 6/9   | 金  | 3     | 小林美奈子                     | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護⑤神経難病療養者と家族(パーキンソン病) [到達目標 2, 3, 4](テキスト①p176～180、テキスト②206～209)<br>[事前学習] 障害者総合支援法についての調べ、パーキンソン病の復習(病態、症状、治療)                                  |
| 18            | 6/9   | 金  | 4     | 小林美奈子                     | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護⑥神経難病療養者と家族(パーキンソン病) [到達目標 2, 3, 4]<br>[事後学習] 学びのレポート(別途指示あり)   |
| 19            | 6/16  | 金  | 3     | 川口ちづる                     | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護⑦認知症療養者と家族 [到達目標 2, 3, 4](テキスト①p185～191、p254～261)<br>[事前学習] 動画の視聴「高齢者の暮らしを支える互助・共助」認知症の中核症状、行動・心理症状などの復習  |
| 20            | 6/16  | 金  | 4     | 増野章子                      | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護⑧独居の認知症療養者 [到達目標 2, 3, 4](テキスト②p210～212)<br>[事後学習] 自分の居住地(市区町村)の認知症ケアパスの調べ  |
| 21            | 6/20  | 火  | 3     | 栗山恵子                      | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護⑨ターミナル期の療養者と家族 [到達目標 3, 4, 6]<br>[事前学習] テキスト②p60～63を読んで来る<br>[事後学習] 学びのレポート   |
| 22            | 6/20  | 火  | 4     | 増野章子                      | 講義室3             | 在宅療養者の理解と看護⑩ターミナル期の療養者と家族 [到達目標 2, 3, 4](テキスト②p60～63、p113～116、p175～180)<br>[事前学習] テキスト②p216～219を読んで来る<br>[事後学習] 地域・在宅におけるターミナルケアに必要な知識の問題と調べ(別途指示)         |
| 23            | 6/23  | 金  | 3     | 小林美奈子<br>増野章子             | 講義室3             | 紙上事例を用いた在宅看護過程①ガイダンス 情報の整理(個人ワーク) [到達目標 4, 8](テキスト②p22～30)<br>[事前学習] 筋萎縮性側索硬化症の病態の調べ   |
| 24            | 6/23  | 金  | 4     | 小林美奈子<br>増野章子             | 講義室3             | 紙上事例を用いた在宅看護過程②情報の整理、アセスメント 知識の確認と解説 [到達目標 4, 8]<br>[事後学習] 情報の整理とアセスメント  |
| 25            | 6/27  | 火  | 3     | 小林美奈子<br>増野章子             | 講義室3             | 紙上事例を用いた在宅看護過程③アセスメント [到達目標 4, 8]<br>[事前学習] アセスメントを進める   |
| 26            | 6/27  | 火  | 4     | 増野章子                      | 講義室3             | 医療処置および医療機器が必要な療養者への看護③(演習:胃ろう、吸引、HOT、膀胱留置カテーテル) [到達目標 4, 5]<br>[事前学習] ワークシート(医療管理の基礎知識)、動画の視聴   |
| 27            | 6/30  | 金  | ..... | 小林美奈子<br>増野章子             | 講義室3、地域・在宅、精神演習室 | 医療処置および医療機器が必要な療養者への看護④(演習:胃ろう、吸引、HOT、膀胱留置カテーテル) [到達目標 4, 5]<br>[事後学習] 演習の振り返り   |

|                  |      |             |   |  |      |   |
|------------------|------|-------------|---|--|------|---|
| 28               | 7/7  | 金           | 3 | 小林美奈子<br>増野章子  | 講義室3 | 紙上事例を用いた在宅看護過程④総合的な関連図 [到達目標 2.4.8]<br>【事後学習】総合的な関連図の作成   |
| 29               | 7/7  | 金           | 4 | 小林美奈子<br>増野章子  | 講義室3 | 紙上事例を用いた在宅看護過程⑤エコマップ [到達目標 2.4.8]<br>【事前学習】エコマップの作成   |
| 30               | 7/14 | 金           | 3 | 小林美奈子<br>増野章子  | 講義室3 | 紙上事例を用いた在宅看護過程⑥まとめ(看護事例の考察・まとめ アセスメントの補足) [到達目標 8]<br>【事後学習】ワークシートの仕上げ  |
| 成績評価方法・基準        |      |             |   |  |      | 定期試験(期末試験):80%、看護過程の提出物:20%   |
| 課題に対するフィードバックの方法 |      |             |   |  |      | 毎回の授業で課題の全体的な傾向を伝え、要点の捕捉を行う。<br>提出物は各自に返却する。  |
| 授業外における学習(予習・復習) |      |             |   |  |      | 関連法規の知識が必要なことも多いので、必要時に、「社会福祉学」・「関係法規」・「保健医療福祉行政論」等の予習、復習を望む。新聞・テレビ等での在宅関連のニュースに関心を持ってほしい。講義ごとに概ね60分以上が予習、復習として必要となる。 |
| 教科書<br>・参考文献等    |      | 教科書         |   | 臺有桂他(編著)『地域・在宅看護論<1> 第7版 地域療養を支えるケア(ナースング・グラフィカ)』(メディカ出版、2022年)ISBN:9784840475433<br>臺有桂他(編著)『地域・在宅看護論<2> 第2版 在宅療養を支える技術(ナースング・グラフィカ)』(メディカ出版、2022年)ISBN:9784840475440 |      |   |
|                  |      | 参考書         |   | 適宜紹介する。  |      |   |
|                  |      | その他         |   | 特になし   |      |   |
|                  |      | 連絡先・オフィスアワー |   | 小林美奈子 研究室15(2階) m-kobayashi@jhsu.ac.jp 水曜日 13:00~16:00<br>増野章子 研究室18(2階) a-mashino@jhsu.ac.jp 水曜日 13:00~16:00<br>上記以外でも在室であれば、可能な限り対応する。できる限りアポイントメントを取って欲しい。          |      |   |
| その他              |      |             |   |  |      | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての実務経験を活かした講義(演習)を行う。  |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目コード         | 12-11340  |
| 授業科目名         | 看護教育学   |
| 配当年次          | 4学年   |
| 開講時期          | 前期  |
| 必修・選択・自由      | 必修  |
| 単位            | 2単位   |
| 時間数           | 30時間  |
| 授業形態          | 講義  |
| 担当教員          | 近藤 誓子、五十嵐 貴大  |
| 実務家教員         | 看護職:近藤誓子、五十嵐 貴大   |
| 授業科目の概要       | 看護師養成教育の歴史的展開と現状を学習し、看護学の発展に向けた看護師養成教育の現状と課題を明確にし、看護継続教育のあり方を考察する。また、これらの課題克服に向け実施された看護教育学研究の成果と特徴を理解し、看護教育学の体系を確認する。看護師養成教育、看護学教育の歴史的展開と法的基盤、制度を学習することにより、その現状と今後の課題、看護専門職の教育における主体的学習、自発的学習の意義と重要性を理解する。また、看護教育学研究の成果を学習し、看護教育学の体系化、発展の意義と課題を理解する。<br>1. 看護師養成教育、看護学教育の歴史的展開を学習することにより、看護学教育の法的基盤や制度の現状と課題を理解する。<br>2. 看護専門職の教育における主体的学習・自発的学習の意義と重要性を確認する。<br>3. 看護教育学研究の成果を学習することを通して、看護教育学の体系化、発展の意義と重要性を理解する。 |
| 授業の到達目標       | 1. 看護教育の目的と概念、看護教育制度の歴史の変遷、カリキュラムの変遷と課題、看護教育方法、看護教育評価、看護教師の資質と役割について理解する。<br>2. 看護教育の効果をあげるための学習理論を学び、患者教育や家族指導への活用について理解する。<br>3. 看護職のキャリア形成と継続教育について理解する。<br>4. 看護専門科目の授業を構築し、模擬授業を実施する。  |
| 関連するディプロマポリシー | 看護学科DP7に該当。   |
| 特に関連する科目      | 教育学、心理学、社会学、看護学   |
| 授業の具体的な進め方    | アクティブラーニング<br>講義、課題に対するグループ討議及び発表の構成で行う。  |

授業計画

| 回数 | 月日   | 曜日 | 時限 | 教員     | 教室   | 内容  |
|----|------|----|----|--------|------|---|
| 1  | 4/5  | 金  | 3  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | ガイダンス<br>看護教育の目的と概念、「授業づくり」演習オリエンテーション  |
| 2  | 4/5  | 金  | 4  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | 看護教育制度の歴史の変遷  |
| 3  | 4/10 | 水  | 1  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | カリキュラムの変遷と課題  |
| 4  | 4/10 | 水  | 2  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | 看護教育方法  |
| 5  | 4/17 | 水  | 1  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | 看護教育評価  |
| 6  | 4/17 | 水  | 2  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | 看護教師の資質と役割  |
| 7  | 4/24 | 水  | 1  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | 看護教育の効果をあげるための学習理論  |
| 8  | 4/24 | 水  | 2  | 五十嵐 貴大 | 講義室4 | 看護師のキャリア形成と継続教育   |
| 9  | 4/26 | 金  | 3  | 近藤 誓子  | 講義室4 | 【模擬授業の準備をする】<br>1. 取り上げた科目の再確認<br>2. 取り上げた科目の概要や到達目標、対象の再確認<br>3. 本時で取り扱う単元の再確認<br>4. 本時の目標の再確認<br>5. 教材観・学生観・指導観を記述する。<br>【リアクションペーパーの記入】  |
| 10 | 4/26 | 金  | 4  | 近藤 誓子  | 講義室4 | 【模擬授業の準備をする】<br>1. 取り上げた科目の再確認<br>2. 取り上げた科目の概要や到達目標、対象の再確認<br>3. 本時で取り扱う単元の再確認<br>4. 本時の目標の再確認<br>5. 教材観・学生観・指導観を記述する。<br>【リアクションペーパーの記入】  |
| 11 | 5/8  | 水  | 1  | 近藤 誓子  | 講義室4 | 【模擬授業の準備をする】<br>6. 様式に則って、授業計画を立案する。<br>7. 授業評価を検討する。<br>8. 模擬授業に必要な役割を分担する。<br>・教授者 1名<br>・授業資料(パワーポイントや配布資料)作成者 1~3名<br>・授業評価作成・配布・回収者 1~2名<br>・授業観察者(教授者、学生) iPadで撮影 3名<br>※空き時間でグループで授業の練習をする。<br>【リアクションペーパーの記入】 |
| 12 | 5/8  | 水  | 2  | 近藤 誓子  | 講義室4 | 【模擬授業の準備をする】<br>6. 様式に則って、授業計画を立案する。<br>7. 授業評価を検討する。<br>8. 模擬授業に必要な役割を分担する。<br>・教授者 1名<br>・授業資料(パワーポイントや配布資料)作成者 1~3名<br>・授業評価作成・配布・回収者 1~2名<br>・授業観察者(教授者、学生) iPadで撮影 3名<br>※空き時間でグループで授業の練習をする。<br>【リアクションペーパーの記入】 |
| 13 | 5/15 | 水  | 1  | 近藤 誓子  | 講義室4 | 【授業を展開する】<br>1. 授業計画案に沿って、模擬授業を実施する(20分)。1G・2G・3G<br>2. 授業後に学生・観察者による授業評価を実施する(5分)。<br>【リアクションペーパーの記入】  |
| 14 | 5/15 | 水  | 2  | 近藤 誓子  | 講義室4 | 【授業を展開する】<br>1. 授業計画案に沿って、模擬授業を実施する(20分)。4G・5G・6G<br>2. 授業後に学生・観察者による授業評価を実施する(5分)。<br>【リアクションペーパーの記入】  |
| 15 | 5/15 | 水  | 3  | 近藤 誓子  | 講義室4 | 【授業を評価する】<br>各Gで以下の内容を評価し、検討する。<br>1. 自己評価する。<br>2. 学生による評価を集計する。<br>3. 観察者による評価を集計する。<br>4. 1~3を通し、授業展開の技術を活用する可能性について自分の意見を述べる。<br>【まとめ】<br>【リアクションペーパーの記入】   |

|                  |  |   |
|------------------|--|---|
| 成績評価方法・基準        | 事前事後課題(50%)、授業内で取り組んだグループワークおよび個人の課題(50%)  |   |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業中及び授業後に個人または集団にフィードバックを行う。   |   |
| 授業外における学習(予習・復習) | 事前学習(時間):1時限あたり30~60分<br>事前学習(内容):授業ごとに授業の予習となるような事前課題を提示するため、十分に取り組んだ上で授業に臨むこと。<br>事後学習(時間):1時限あたり30~60分<br>事後学習(内容):教科書、配布資料をもとに復習を行うこと。 |   |
| 教科書<br>・参考文献等    | 教科書  | 使用しない   |
|                  | 参考書  | 佐藤みつ子『看護教育における授業設計 第4版(医学書院、2015)ISBN:9784260008402   |
|                  |  | 杉森みどり, 舟島なをみ『看護教育学 第7版』(医学書院、2021) ISBN:9784260047319 |
|                  |  | 田島桂子『看護学教育評価の基礎と実際 第2版』(医学書院、2009) ISBN:9784260009331 |
| その他              |  |   |
| 連絡先・オフィスアワー      | 連絡先 :近藤 誓子 s-kondou@jhsu.ac.jp<br>オフィスアワー:授業終了後または随時(事前のアポイントによる)<br>場所:近藤 誓子研究室 研究室10   |   |
| その他              | 【実務経験を活かした実践的教育内容】<br>看護職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。   |   |